

# 公共健康医学専攻(SPH)シラバス

2018年度

東京大学大学院医学系研究科



## 目次

事 項		ページ
1. 授業科目の履修について		1
	1. 修了要件	1
	2. 履修手続き	1
2. 授業科目一覧		2
3. 時間割		3
4. 履修モデル		4～7
	「公衆衛生行政・管理」	4
	「保健アナリスト・コーディネーター」	5
	「臨床疫学・アウトカム評価」	6
	「医療情報・臨床工学」	7
5. シラバス		8～51
6. 公共健康医学専攻成績評価規則		52
7. 公共政策大学院との合併科目について		53～54
8. 国際保健学専攻との合併科目について		55～59

日 程	
S P Hガイダンス	4月 3日 (火)
入進学者ガイダンス	4月 4日 (水)
大学院入学式	4月12日 (木)
S 1ターム	4月 5日 (木) ~ 6月 1日 (金)
定期健康診断	新入生： 4月25日 (火) ~ 6月5日 (火) ----- 在学生： 4月18日 (水) ~ 24日 (火) 5月 7日 (月) ~ 25日 (金)
S 2ターム	6月 4日 (月) ~ 7月30日 (月)
S P H研究室配属 (予定)	オリエンテーション：6月中旬~下旬 ----- 希望調書提出      : 7月上旬~中旬
夏季休業期間	7月31日 (火) ~ 9月20日 (木)
A 1ターム	9月25日 (火) ~ 11月16日 (金)
A 2ターム	11月19日 (月) ~ 1月25日 (金)
Wターム	1月28日 (月) ~ 3月 7日 (木)
S P H課題研究論文	題目届提出期限： 11月28日 (水) ----- 論文提出期限： 12月14日 (金) ----- 発 表 会： 1月11日 (金)
学位記授与式	3月25日 (月) (予定)

時 限	1 時 限	8 : 3 0 ~ 1 0 : 1 5
	2 時 限	1 0 : 2 5 ~ 1 2 : 1 0
	3 時 限	1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 4 5
	4 時 限	1 4 : 5 5 ~ 1 6 : 4 0
	5 時 限	1 6 : 5 0 ~ 1 8 : 3 5
	6 時 限	1 8 : 4 5 ~ 2 0 : 3 0

# 1. 授業科目の履修について

## 1. 修了要件

コース		1年コース	2年コース																																								
標準修業年限		1年	2年																																								
必要単位数		必修科目及び選択科目合わせて30単位以上																																									
修了要件	必修	①A：1科目+B：5科目の計6科目を履修																																									
		A：必須科目																																									
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>科目番号</th> <th>科目名</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>41818113</td> <td>医学データの統計解析</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>		科目番号	科目名	単位	41818113	医学データの統計解析	2																																		
科目番号	科目名	単位																																									
41818113	医学データの統計解析	2																																									
B：下記の5つに分類されている必修科目を、各分類から1科目ずつ計5科目(各分類1科目以上、計5科目以上履修も可)																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>科目番号</th> <th>科目名</th> <th>単位</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">1</td> <td>41818111</td> <td>疫学研究と実践</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41818115</td> <td>医学研究のデザイン</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">2</td> <td>41818211</td> <td>精神保健学 I</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41818213</td> <td>健康教育学</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">3</td> <td>41818218</td> <td>医療倫理学 I</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41818220</td> <td>社会と健康 I</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41818316</td> <td>法医学・医事法学</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">4</td> <td>41818311</td> <td>健康医療政策学</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41818312</td> <td>医療情報システム学</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">5</td> <td>41818222</td> <td>産業保健の理論と実践</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>41818322</td> <td>環境健康医学</td> <td>1</td> </tr> </tbody> </table>		分類	科目番号	科目名	単位	1	41818111	疫学研究と実践	2	41818115	医学研究のデザイン	2	2	41818211	精神保健学 I	2	41818213	健康教育学	2	3	41818218	医療倫理学 I	2	41818220	社会と健康 I	2	41818316	法医学・医事法学	2	4	41818311	健康医療政策学	2	41818312	医療情報システム学	2	5	41818222	産業保健の理論と実践	2	41818322	環境健康医学	1
分類	科目番号	科目名	単位																																								
1	41818111	疫学研究と実践	2																																								
	41818115	医学研究のデザイン	2																																								
2	41818211	精神保健学 I	2																																								
	41818213	健康教育学	2																																								
3	41818218	医療倫理学 I	2																																								
	41818220	社会と健康 I	2																																								
	41818316	法医学・医事法学	2																																								
4	41818311	健康医療政策学	2																																								
	41818312	医療情報システム学	2																																								
5	41818222	産業保健の理論と実践	2																																								
	41818322	環境健康医学	1																																								
		② 課題研究 (6単位) (2年次に履修申請すること)																																									
	選択科目	①選択科目(1年コースの課題研究は選択科目扱い) ②他専攻・他研究科(特に公共政策大学院)科目(8単位まで)																																									

注意事項：同一年度中に50単位を超えて履修科目を登録することはできません。

※ 通年科目はS1タームの単位として算入されます。(ただし、課題研究論文については1年コース所属学生の場合のみ、A1タームの履修単位として算入されます。)

## 2. 履修手続き

下記期間内に、学務システム(通称:UTAS)で履修登録を行ってください。

<参照> <https://utas.adm.u-tokyo.ac.jp/campusweb/campusportal.do>

	S1	S2	A1	A2	W
履修登録期間	4/5~4/18		9/25~10/5		
履修登録追加期間	—	6/25~6/29	—	11/19~12/3	

## 2. 授業科目一覧

※講義室・講義日程が変更となる場合があるので掲示等を必ず確認すること。

頁	科目番号	授業科目	単位	ターム	曜日	時限等	担当教員		開始日
8	41818111	疫学研究と実践	2	S1・S2	金	2	佐々木 敏	教授	4/6
9	41818112	予防保健の実践と評価	2	夏季	集中	2~4	佐々木 敏	教授	8/6
10	41818113	医学データの統計解析	2	S1	木	3・4	松山 裕	教授	4/5
11	41818114	医学統計学演習	2	S2	木	3・4	大庭 幸治	准教授	6/7
12	41818115	医学研究のデザイン	2	S2	火	3・4	松山 裕	教授	6/5
13	41818116	臨床疫学	2	S2	水	1・2	康永 秀生	教授	6/6
14	41818117	臨床疫学・経済学演習	2	A1・A2	木	3・4	康永 秀生	教授	9/27
15	41818118	保健医療経済学	2	S1	水	1・2	康永 秀生	教授	4/11
16	41818120	医療コミュニケーション学	2	S1	火	3・4	木内 貴弘	教授	4/10
18	41818122	医療コミュニケーション学演習	2	S2	水	3・4	木内 貴弘	教授	6/6
19	41818124	医療技術評価学演習	1	A2	木	2	康永 秀生	教授	11/22
20	41818126	臨床医学概論	1	S1	木	2	康永 秀生	教授	4/5
21	41818127	医学研究とCDISC標準	1	A1	火	3	木内 貴弘	教授	9/25
22	41818128	がん疫学	1	A1	月	4	専攻長		10/1
23	41818211	精神保健学Ⅰ	2	S1・S2	火	5	川上 憲人	教授	4/10
24	41818212	精神保健学Ⅱ	2	A1・A2	火	5	川上 憲人	教授	10/2
25	41818213	健康教育学	2	A2	金	1・2	橋本 英樹	教授	11/30
26	41818214	健康社会学	2	A1	金	1・2	橋本 英樹	教授	9/28
27	41818218	医療倫理学Ⅰ	2	S1	木	5・6	赤林 朗	教授	4/5
28	41818219	医療倫理学Ⅱ	2	S2	木	5・6	瀧本 禎之	准教授	4/5
29	41818220	社会と健康Ⅰ	2	A1	木	1・2	近藤 尚己 橋本 英樹 川上 憲人	准教授 教授 教授	9/27
30	41818221	社会と健康Ⅱ	2	A2	金	3・4	近藤 尚己	准教授	11/30
31	41818222	産業保健の理論と実践	2	A1	水	1・2	川上 憲人 大久保 靖司	教授 教授	9/26
32	41818223	保健医療人材育成学	2	S1	火	1・2	大西 弘高	講師	4/10
33	41818224	学習者評価学	2	A1	火	1・2	大西 弘高	講師	9/25
34	41818225	Health Care and Community Health in Japan	1	S2	月	4	川上 憲人	教授	6/4
35	41818311	健康医療政策学	2	A1・A2	月	5	小林 廉毅 豊川 智之	教授 准教授	10/1
36	41818312	医療情報システム学	2	S1	金	3・4	大江 和彦	教授	4/6
37	41818313	医療情報システム学実習	1	S2	木	1・2	大江 和彦	教授	6/7
38	41818316	法医学・医事法学	2	S1・S2	月	3	岩瀬 博太郎 榎野 陽介	教授 准教授	4/16
39	41818318	医療安全管理学	1	S1	水	3・4	安樂 真樹	特任准教授	4/18
41	41818319	医療安全管理学実習	0.5	夏季	集中	1~6	安樂 真樹	特任准教授	TBA
42	41818320	健康危機管理学	1	S1	月	1・2	小林 廉毅	教授	5/7
43	41818321	保健行政・健康危機管理学実習	2	夏季	集中		小林 廉毅	教授	9/3
44	41818322	環境健康医学	1	A1	月	2	専攻長		10/1
45	41818323	公共健康情報学	2	S2	金	3・4	小山 博史	教授	6/8
47	41818324	公共健康情報学演習	2	A1	金	3・4	小山 博史	教授	9/28
54	41818326	社会保障法政策	2	A1・A2	月	6	島崎 謙治	講師	10/1
56	41818328	国際保健政策学Ⅰ	2	S1・A1	火	3・4	渋谷 健司	教授	4/7
58	41818329	国際保健政策学Ⅱ	2	A2・W	火	3・4	渋谷 健司	教授	11/20
48	41818411	インターンシップ	2	夏季・A1・W			川上 憲人	教授	-
50	41818511	公共健康医学特論	2	S1	月	4・5	豊川 智之	准教授	4/9
51	41818611	課題研究	6	通年			各指導教員		-

\* 講義室は、原則、医学部教育研究棟13階公共健康医学専攻(SPH)講義室

\*「法医学・医事法学演習」、「医療経営学演習」、「健康増進科学」は休講とする

時間割(平成30年度)

( )単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W			
曜日	時限	4/5~6/1	6/4~7/30	7/31~9/20	9/25~11/16	11/19~1/25	1/28~3/7			
		8W	8W	8W	8W	8W	5W			
月	1 8:30-10:15	41818320- 健康危機管理学(1)		下記特記 事項参照				1	月	
	2 10:25-12:10				41818322- 環境健康医学(1)*5		2			
	3 13:00-14:45	41818316-法医学・医事法学(2)*3						3		
	4 14:55-16:40	41818412- 公共健康医学特論(2)	41818225-Health Care and Community Health in Japan (1)			41818128-がん疫学(1)		4		
	5 16:50-18:35					41818311-健康医療政策学(2)*4				5
	6 18:45-20:30									6
火	1 8:30-10:15	41818223- 保健医療人材育成学 (2)		下記特記 事項参照				1	火	
	2 10:25-12:10				41818224- 学習者評価学(2)		2			
	3 13:00-14:45	41818120- 医療コミュニケーション学(2)	41818115- 医学研究のデザイン(2)*1			41818127-医学研究と CDISC標準(1)		3		
	4 14:55-16:40							4		
	5 16:50-18:35	41818211-精神保健学 I (2)*2				41818212-精神保健学 II (2)				5
	6 18:45-20:30									6
水	1 8:30-10:15	41818118- 保健医療経済学(2)	41818116-臨床疫学(2)	下記特記 事項参照	41818222- 産業保健の理論と実 践(2)*5			1	水	
	2 10:25-12:10									2
	3 13:00-14:45	41818318- 医療安全管理学(1)	41818122- 医療コミュニケーション学演習 (2)					3		
	4 14:55-16:40							4		
	5 16:50-18:35							5		
	6 18:45-20:30							6		
木	1 8:30-10:15		41818313- 医療情報システム学実習(1)	下記特記 事項参照	41818220- 社会と健康 I (2)*3	41818124-医療技術 評価学演習(1)		1	木	
	2 10:25-12:10	41818126- 臨床医学概論(1)						2		
	3 13:00-14:45	41818113-医学データの 統計解析(2)**	41818114-医学統計学演 習(2)			41818117-臨床疫学・経済学演習(2)				3
	4 14:55-16:40							4		
	5 16:50-18:35	41818218- 医療倫理学 I (2)*3	41818219- 医療倫理学 II (2)							5
	6 18:45-20:30									6
金	1 8:30-10:15			下記特記 事項参照	41818214- 健康社会学(2)	41818213- 健康教育学(2)*2		1	金	
	2 10:25-12:10	41818111-疫学研究と実践(2)*1						2		
	3 13:00-14:45	41818312- 医療情報システム学 (2)*4	41818323- 公共健康情報学(2)			41818324- 公共健康情報学演習 (2)	41818221- 社会と健康 II (2)			3
	4 14:55-16:40									
	5 16:50-18:35									5
	6 18:45-20:30									6

夏季休業期間	8月	2週目	41818112-予防保健の実践と評価(2)
	9月	1週目	41818321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
		3週目	41818319-医療安全管理学実習(0.5)

\*\* 必修科目  
\*1~5 選択必修科目

#### 4. 履修モデル

##### 履修モデル「公衆衛生行政・管理」

( )単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W			
曜日	時限	4/2~6/1	6/4~7/30	7/31~9/19	9/20~11/16※	11/19~1/25	1/28~3/7			
		9W	8W	8W	8W	9W	6W			
月	1 8:30-10:15	41818320-健康危機管理学(1)		下記特記事項参照				1	月	
	2 10:25-12:10				41818322-環境健康医学(1)*5			2		
	3 13:00-14:45	41818316-法医学・医事法学(2)*3								3
	4 14:55-16:40	41818412-公共健康医学特論(2)	41818225-Health Care and Community Health in Japan (1)			41818128-がん疫学(1)				4
	5 16:50-18:35					41818311-健康医療政策学(2)*4				5
	6 18:45-20:30									6
火	1 8:30-10:15	41818223-保健医療人材育成学(2)		下記特記事項参照	41818224-学習者評価学(2)			1	火	
	2 10:25-12:10							2		
	3 13:00-14:45	41818120-医療コミュニケーション学(2)	41818115-医学研究のデザイン(2)*1			41818127-医学研究とCDISC標準(1)				3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35	41818211-精神保健学 I (2)*2				41818212-精神保健学 II (2)				5
	6 18:45-20:30									6
水	1 8:30-10:15	41818118-保健医療経済学(2)	41818116-臨床疫学(2)	下記特記事項参照	41818222-産業保健の理論と実践(2)*5			1	水	
	2 10:25-12:10							2		
	3 13:00-14:45	41818318-医療安全管理学(1)	41818122-医療コミュニケーション学演習(2)							3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35									5
	6 18:45-20:30									6
木	1 8:30-10:15		41818313-医療情報システム学実習(1)	下記特記事項参照	41818220-社会と健康 I (2)*3	41818124-医療技術評価学演習(1)		1	木	
	2 10:25-12:10	41818126-臨床医学概論(1)						2		
	3 13:00-14:45	41818113-医学データの統計解析(2)**	41818114-医学統計学演習(2)			41818117-臨床疫学・経済学演習(2)				3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35	41818218-医療倫理学 I (2)*3	41818219-医療倫理学 II (2)							5
	6 18:45-20:30									6
金	1 8:30-10:15			下記特記事項参照	41818214-健康社会学(2)	41818213-健康教育学(2)*2		1	金	
	2 10:25-12:10	41818111-疫学研究と実践(2)*1						2		
	3 13:00-14:45	41818312-医療情報システム学(2)*4	41818323-公共健康情報学(2)			41818324-公共健康情報学実習(1)	41818221-社会と健康 II (2)			3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35					41818325-科学技術コミュニケーション(2)				5
	6 18:45-20:30									6

夏季休業期間	8月	2週目	41818112-予防保健の実践と評価(2)
	9月	1週目	41818321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
		3週目	41818319-医療安全管理学実習(0.5)

\*\* 必修科目  
\*1~5 選択必修科目

履修モデル「保健アナリスト・コーディネーター」

( )単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W			
曜日	時限	4/2~6/1	6/4~7/30	7/31~9/19	9/20~11/16※	11/19~1/25	1/28~3/7			
		9W	8W	8W	8W	9W	6W			
月	1 8:30-10:15	41818320-健康危機管理学(1)		下記特記事項参照				1	月	
	2 10:25-12:10				41818322-環境健康医学(1)*5			2		
	3 13:00-14:45	41818316-法医学・医事法学(2)*3								3
	4 14:55-16:40	41818412-公共健康医学特論(2)	41818225-Health Care and Community Health in Japan (1)			41818128-がん疫学(1)				4
	5 16:50-18:35					41818311-健康医療政策学(2)*4				5
	6 18:45-20:30									6
火	1 8:30-10:15	41818223-保健医療人材育成学(2)		下記特記事項参照	41818224-学習者評価学(2)			1	火	
	2 10:25-12:10							2		
	3 13:00-14:45	41818120-医療コミュニケーション学(2)	41818115-医学研究のデザイン(2)*1			41818127-医学研究とCDISC標準(1)				3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35	41818211-精神保健学 I (2)*2				41818212-精神保健学 II (2)				5
	6 18:45-20:30									6
水	1 8:30-10:15	41818118-保健医療経済学(2)	41818116-臨床疫学(2)	下記特記事項参照	41818222-産業保健の理論と実践(2)*5			1	水	
	2 10:25-12:10							2		
	3 13:00-14:45	41818318-医療安全管理学(1)	41818122-医療コミュニケーション学演習(2)							3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35									5
	6 18:45-20:30									6
木	1 8:30-10:15		41818313-医療情報システム学実習(1)	下記特記事項参照	41818220-社会と健康 I (2)*3	41818124-医療技術評価学演習(1)		1	木	
	2 10:25-12:10	41818126-臨床医学概論(1)						2		
	3 13:00-14:45	41818113-医学データの統計解析(2)**	41818114-医学統計学演習(2)			41818117-臨床疫学・経済学演習(2)				3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35	41818218-医療倫理学 I (2)*3	41818219-医療倫理学 II (2)							5
	6 18:45-20:30									6
金	1 8:30-10:15			下記特記事項参照	41818214-健康社会学(2)	41818213-健康教育学(2)*2		1	金	
	2 10:25-12:10	41818111-疫学研究と実践(2)*1						2		
	3 13:00-14:45	41818312-医療情報システム学(2)*4	41818323-公共健康情報学(2)			41818324-公共健康情報学実習(1)	41818221-社会と健康 II (2)			3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35					41818325-科学技術コミュニケーション(2)				5
	6 18:45-20:30									6

夏季休業期間	8月	2週目	41818112-予防保健の実践と評価(2)
	9月	1週目	41818321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
		3週目	41818319-医療安全管理学実習(0.5)

\*\* 必修科目  
\*1~5 選択必修科目

履修モデル「臨床疫学・アウトカム評価」

( )単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W			
曜日	時限	4/2~6/1	6/4~7/30	7/31~9/19	9/20~11/16※	11/19~1/25	1/28~3/7			
		9W	8W	8W	8W	9W	6W			
月	1 8:30-10:15	41818320-健康危機管理学(1)		下記特記事項参照				1	月	
	2 10:25-12:10				41818322-環境健康医学(1)*5			2		
	3 13:00-14:45	41818316-法医学・医事法学(2)*3								3
	4 14:55-16:40	41818412-公共健康医学特論(2)	41818225-Health Care and Community Health in Japan (1)			41818128-がん疫学(1)				4
	5 16:50-18:35					41818311-健康医療政策学(2)*4				5
	6 18:45-20:30									6
火	1 8:30-10:15	41818223-保健医療人材育成学(2)			41818224-学習者評価学(2)			1	火	
	2 10:25-12:10							2		
	3 13:00-14:45	41818120-医療コミュニケーション学(2)	41818115-医学研究のデザイン(2)*1		41818127-医学研究とCDISC標準(1)			3		
	4 14:55-16:40							4		
	5 16:50-18:35	41818211-精神保健学 I (2)*2			41818212-精神保健学 II (2)			5		
	6 18:45-20:30							6		
水	1 8:30-10:15	41818118-保健医療経済学(2)	41818116-臨床疫学(2)		41818222-産業保健の理論と実践(2)*5			1	水	
	2 10:25-12:10							2		
	3 13:00-14:45	41818318-医療安全管理学(1)	41818122-医療コミュニケーション学演習(2)					3		
	4 14:55-16:40							4		
	5 16:50-18:35							5		
	6 18:45-20:30							6		
木	1 8:30-10:15		41818313-医療情報システム学実習(1)		41818220-社会と健康 I (2)*3	41818124-医療技術評価学演習(1)		1	木	
	2 10:25-12:10	41818126-臨床医学概論(1)						2		
	3 13:00-14:45	41818113-医学データの統計解析(2)**	41818114-医学統計学演習(2)		41818117-臨床疫学・経済学演習(2)			3		
	4 14:55-16:40							4		
	5 16:50-18:35	41818218-医療倫理学 I (2)*3	41818219-医療倫理学 II (2)					5		
	6 18:45-20:30							6		
金	1 8:30-10:15				41818214-健康社会学(2)	41818213-健康教育学(2)*2		1	金	
	2 10:25-12:10	41818111-疫学研究と実践(2)*1						2		
	3 13:00-14:45	41818312-医療情報システム学(2)*4	41818323-公共健康情報学(2)		41818324-公共健康情報学実習(1)	41818221-社会と健康 II (2)		3		
	4 14:55-16:40							4		
	5 16:50-18:35				41818325-科学技術コミュニケーション(2)			5		
	6 18:45-20:30							6		

夏季休業期間	8月	2週目	41818112-予防保健の実践と評価(2)
	9月	1週目	41818321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
		3週目	41818319-医療安全管理学実習(0.5)

\*\* 必修科目  
\*1~5 選択必修科目

履修モデル「医療情報・臨床工学」

( )単位数

		S1	S2	夏季休業	A1	A2	W			
曜日	時限	4/2~6/1	6/4~7/30	7/31~9/19	9/20~11/16※	11/19~1/25	1/28~3/7			
		9W	8W	8W	8W	9W	6W			
月	1 8:30-10:15	41818320-健康危機管理学(1)		下記特記事項参照				1	月	
	2 10:25-12:10				41818322-環境健康医学(1)*5			2		
	3 13:00-14:45	41818316-法医学・医事法学(2)*3								3
	4 14:55-16:40	41818412-公共健康医学特論(2)	41818225-Health Care and Community Health in Japan (1)			41818128-がん疫学(1)				4
	5 16:50-18:35					41818311-健康医療政策学(2)*4				5
	6 18:45-20:30									6
火	1 8:30-10:15	41818223-保健医療人材育成学(2)		下記特記事項参照	41818224-学習者評価学(2)			1	火	
	2 10:25-12:10							2		
	3 13:00-14:45	41818120-医療コミュニケーション学(2)	41818115-医学研究のデザイン(2)*1			41818127-医学研究とCDISC標準(1)				3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35	41818211-精神保健学 I (2)*2				41818212-精神保健学 II (2)				5
	6 18:45-20:30									6
水	1 8:30-10:15	41818118-保健医療経済学(2)	41818116-臨床疫学(2)	下記特記事項参照	41818222-産業保健の理論と実践(2)*5			1	水	
	2 10:25-12:10							2		
	3 13:00-14:45	41818318-医療安全管理学(1)	41818122-医療コミュニケーション学演習(2)							3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35									5
	6 18:45-20:30									6
木	1 8:30-10:15		41818313-医療情報システム学実習(1)	下記特記事項参照	41818220-社会と健康 I (2)*3	41818124-医療技術評価学演習(1)		1	木	
	2 10:25-12:10	41818126-臨床医学概論(1)						2		
	3 13:00-14:45	41818113-医学データの統計解析(2)**	41818114-医学統計学演習(2)			41818117-臨床疫学・経済学演習(2)				3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35	41818218-医療倫理学 I (2)*3	41818219-医療倫理学 II (2)							5
	6 18:45-20:30									6
金	1 8:30-10:15			下記特記事項参照	41818214-健康社会学(2)	41818213-健康教育学(2)*2		1	金	
	2 10:25-12:10	41818111-疫学研究と実践(2)*1						2		
	3 13:00-14:45	41818312-医療情報システム学(2)*4	41818323-公共健康情報学(2)			41818324-公共健康情報学実習(1)	41818221-社会と健康 II (2)			3
	4 14:55-16:40									4
	5 16:50-18:35					41818325-科学技術コミュニケーション(2)				5
	6 18:45-20:30									6

夏季休業期間	8月	2週目	41818112-予防保健の実践と評価(2)
	9月	1週目	41818321-保健行政・健康危機管理学実習(2)
		3週目	41818319-医療安全管理学実習(0.5)

\*\* 必修科目  
\*1~5 選択必修科目

## 5. シラバス

科 目 名	疫学研究と実践	[科目番号：41818111]
タ ー ム	S1S2	単 位 数 2
曜日・授業時間帯	金 2	
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室	
担 当 教 員	佐々木 敏	
授 業 の 目 的	<p>地域・職域など、社会（生活環境下）で実施する疫学研究の理論と方法についての基本を理解することを目的とする。この種の疫学研究を実施・実践する際や利用する際に考慮すべき点を理解し、その具体的な方法と技術について学ぶ。</p> <p>主な内容は次の通り：予防保健と疫学の関連、疫学的思考、疫学研究論文の読み方、疫学研究のデザイン、測定誤差の種類と対策、疾患からみた疫学研究、生活要因からみた疫学研究、保健業務（特定保健指導等）における疫学研究の考え方と方法、保健業務や疾病予防活動への研究成果の利用方法、その他。</p>	
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回ひとつのテーマを選んで講義を行う。</li> <li>・テーマ毎に資料が配布される。</li> <li>・4回目から13回目までは毎回講義後に宿題（小レポート）が課される。</li> <li>・6回目から13回目までは小レポートの発表が課されることがある。</li> </ul>	
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 4/6 序論</li> <li>2) 4/13 疫学の歴史と社会的役割</li> <li>3) 4/20 記述疫学の目的と方法</li> <li>4) 4/27 生態学的研究の目的と方法 (注意) 5/4 は休講</li> <li>5) 5/11 横断研究の目的と方法</li> <li>6) 5/18 測定誤差とその具体的な対策 (1)</li> <li>7) 5/25 測定誤差とその具体的な対策 (2)</li> <li>8) 6/1 症例対照研究の目的と方法</li> <li>9) 6/8 コホート研究の目的と方法</li> <li>10) 6/15 介入研究の目的と方法 (1)</li> <li>11) 6/22 介入研究の目的と方法 (2)</li> <li>12) 6/29 レビュー・メタ・アナリシスの目的と方法</li> <li>13) 7/6 疫学研究の保健活動への活用 (注意) 7/13 は予備日</li> </ol>	
教 科 書	講義毎に異なる。適宜指示する。	
参 考 書	講義毎に異なる。適宜指示する。	
成績評価の方法	出席（配点：およそ4割）、小レポート（同：およそ4割）と講義時間中の質疑応答など（同：およそ2割）を合算して判定する。	
他の授業との関連・履修上の注意	<p>「予防保健の実践と評価」を学ぶための必須の基礎理論となる。</p> <p>「医学データの統計解析」、「健康教育学」と関連する。</p>	

科 目 名	予防保健の実践と評価 [科目番号：41818112]		
タ ー ム	集中	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	集中		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	佐々木 敏		
授 業 の 目 的	<p>地域・職域などをフィールドとして行う疫学研究や予防保健領域の実践活動の計画・実践・評価の方法、政策への活用などについて、さまざまな実例を用いて、実践者・研究者からの紹介を通じて学ぶ。理論だけでは解決できない現実に対して科学性を保ちながらどのように対処するかという実践的な視点からの予防保健の知識や技術の獲得を主な目的とする。</p>		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各回 1 つのテーマを選び、担当教員と外来講師が講義を行い、その後に学生との討論(質疑応答)を行う。</li> <li>・テーマごとに資料が配布される。</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>1) 8/6 実生活・実社会の中で行われる地域予防保健分野の介入試験はどのように計画され、実施されるべきかについて、沖縄の健康問題を例に学ぶ。</p> <p>2) 8/7 たばこ(喫煙)を例にあげて、予防保健の理論と実践ならびにその評価方法について学ぶ。特に、社会問題としてのたばこ問題に注目する。</p> <p>3) 8/8 予防保健の評価技術：「健康日本21」「行政調査」をはじめ、国や地方自治体などが行っている健康施策の実践ならびに評価の方法・技術について、実例を交えて学ぶ。</p> <p>4) 8/9 諸外国における予防保健実践活動と評価：アメリカ合衆国で行われている肥満・糖尿病予防に関連した地域保健活動を例として、その実際について制度も含めて学ぶ。</p> <p>5) 8/10 地域における医療・予防保健実践活動：実践可能性を重視し、理論・数字を超えた現実について実例を交えて学ぶ。</p> <p>6) (日程のなかから適宜利用可能な2～3時限程度) 予防保健分野で活用できる個人・集団レベルの生活習慣評価法について、食習慣を例として、その理論と技術を学ぶ。</p> <p>原則としてすべての日で、担当教員による基礎知識に関する講義、外来講師(実践者・研究者)による講義、外来講師を交えた討論を行う。</p> <p>(注意) 講義期日順序ならびに内容は変更がありうる。公共健康医学専攻以外の学生は7月下旬に担当教官宛に事前に確認をされたい。</p>		
教 科 書	講義毎に異なる。適宜指示する。		
参 考 書	講義毎に異なる。適宜指示する。		
成績評価の方法	講義への出席(配点：およそ4割)ならびに講義内での討論の内容(質問と発言)(配点：およそ6割)を総合的に評価して判定する。		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>「疫学研究と実践」で学んだ知識・理論を実践につなげられる能力を養うことを目的とする。</p> <p>「医学データの統計解析」、「健康教育学」、「健康医療政策学」と関連する。</p>		

科 目 名	医学データの統計解析 [科目番号：41818113]		
タ ー ム	S1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 4 & 木 3		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	松山 裕		
授 業 の 目 的	統計的推測の基礎とともに、医学研究で日常的に用いられる統計解析手法、及びやや高度ながら身に付けておくべき統計解析手法について、実例を中心に教え、医学論文を読むうえで必須となる統計基礎知識を習得させると同時に、自らが統計解析を行ううえでの基礎能力を身に付けることを目的とする。		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講義形式 (テーマごとに資料が配布される)</li> <li>・ 毎回の講義に関連したミニレポートを毎週提出すること</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4月05日 医学研究における統計学の活用 4月19日 治療効果・曝露効果の指標と95%信頼区間 4月26日 2群の比較 5月10日 層別解析・ロジスティック回帰 5月17日 分散分析入門・相関と回帰 5月24日 生存時間解析 5月31日 経時データ解析入門、サンプルサイズ設計  期末試験の日時は、7月31日(火)2限(10時25分-12時10分)		
教 科 書	下記、参考書欄を参照		
参 考 書	初級者向け参考書 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ はじめて学ぶ医療統計学. 折笠秀樹 監訳 (総合医学社)</li> <li>・ 一歩進んだ医療統計学. 折笠秀樹 監訳 (総合医学社)</li> </ul> 中級者以上向け参考書 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医学研究における実用統計学. DG Altman 著 木船・佐久間訳 (サイエンティスト社)</li> <li>・ Lang et al. (著) 大橋・林 監訳: わかりやすい医学統計の報告・医学論文作成のためのガイドライン- 中山書店、2011.</li> <li>・ 医師のための臨床統計学 基礎編. 大橋靖雄 編著 医歯薬出版株式会社</li> </ul>		
成績評価の方法	期末試験 (80%)、毎回の小レポート (10%)、出席 (10%) で評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	受講希望者は1回目の講義に必ず出席すること。		

科目名	医学統計学演習 [科目番号：41818114]		
タ ー ム	S2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 4 & 木 3		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	大庭 幸治		
授 業 の 目 的	<p>「医学データの統計解析」で講義された主要な統計手法について、実例を用いて統計解析ソフト JMP で演習を行う。その後、各グループで探索的な研究仮説を検討したのち、eStat (<a href="https://www.e-stat.go.jp/">https://www.e-stat.go.jp/</a>)にて公開されている公的データを利用して JMP を用いた解析を実施し、解析結果の発表を行い結果の提示方法を学ぶ。</p> <p>そのため、授業開始前に、各自の PC に JMP をインストールして、インストール済みの PC を持参すること。PC を持っていない学生は、事前に担当教員まで連絡をすること。</p>		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最初に JMP の使用についての演習を行う。</li> <li>・解析手法について簡単なインストラクションの後、実例を用いた解析演習を行い、レポートを作成する。</li> <li>・後半では、実際のデータを JMP を用いて解析し、班別に結果を発表する。</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>6月7日 JMP 入門</p> <p>6月14日 2群の比較</p> <p>6月21日 相関と回帰、分散分析</p> <p>6月28日 分割表の解析とロジスティック回帰</p> <p>7月5日 生存時間解析</p> <p>7月12日 多変量解析、JMP を用いた探索的データ解析</p> <p>7月19日 データ解析実習</p> <p>7月26日 結果発表会</p>		
教 科 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「医学データの統計解析」と同様の教科書</li> <li>・統計ソフト JMP 内、ヘルプドキュメンテーション (日本語版)</li> </ul>		
参 考 書	<p>以下の教科書も補助的資料として参考になる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心理統計学の基礎 統合的理解のために (有斐閣アルマ)</li> <li>・続・心理統計学の基礎 統合的理解を広げ深める (有斐閣アルマ)</li> <li>・医学研究のための多変量解析 (メディカル・サイエンス・インターナショナル)</li> </ul>		
成績評価の方法	出席(50%)とレポート(50%)で合・否判定する。		
他の授業との関連・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人用 PC に JMP をインストールして授業に参加すること。</li> <li>・「医学データの統計解析」履修を条件とする。</li> <li>・「医学研究のデザイン」と関連する。</li> <li>・授業開始前に、各自の PC に JMP をインストールして、インストール済みの PC を持参すること。インストールの方法は、「医学データの統計解析」において配布する JMP のインストールについてを参照、もしくは <a href="http://www.epistat.m.u-tokyo.ac.jp/curriculum/">http://www.epistat.m.u-tokyo.ac.jp/curriculum/</a>→公共健康医学専攻 (SPH) →医学統計学演習にある、JMP インストールについてをダウンロードして、各自参照すること。</li> <li>・アンケートを反映させて、TA の適切な配置、演習とインストラクションの時間配分を変更した。</li> </ul>		

科 目 名	医学研究のデザイン [科目番号：41818115]		
タ ー ム	S2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 4 & 火 3		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	松山 裕		
授 業 の 目 的	疫学研究・臨床試験のデザインと実際の研究運営についての講義・演習を行う。 主要雑誌に掲載される論文について、特にデザインについて理解するための基礎知識を習得し、共同作業でプロトコルを策定できる能力並びに研究事務局に参画するために必要とされる能力を磨くことを目指す。		
授 業 の 方 法	・テーマ毎に講義・演習を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	6/05 研究デザインの分類と特徴：観察研究のデザイン総論 (松山) 6/12 研究デザインの分類と特徴：臨床試験のデザイン総論 (松山) 6/19 臨床試験のデザインとプロトコル作成：CONSORT による論文チェック (林) 6/26 疫学研究のデザインとプロトコル作成：STROBE による論文チェック (林) 7/03 データマネージメントと品質管理：研究組織と運営 (佐々木) 7/10 休講 7/17 医薬品の承認審査・先進医療の評価の概要と実際 (柴田) 7/24 傾向スコアを用いた研究デザイン：傾向スコアの正しい使い方 (松山)		
教 科 書	講義毎に異なるので適宜指示する。ただし以下を国際的にも評価の高い一般的な教科書として推薦する。 ・Hulley et al. (著) 木原・木原 訳：医学的研究のデザイン、メディカルサイエンスインターナショナル、2009。 ・Lang et al. (著) 大橋・林 監訳：わかりやすい医学統計の報告-医学論文作成のためのガイドライン- 中山書店、2011。		
参 考 書	講義毎に異なるので適宜指示する。ただし以下を国際的にも評価の高い一般的な教科書として推薦する。 ・Hulley et al. (著) 木原・木原 訳：医学的研究のデザイン、メディカルサイエンスインターナショナル、2009。 ・Lang et al. (著) 大橋・林 監訳：わかりやすい医学統計の報告-医学論文作成のためのガイドライン- 中山書店、2011。		
成績評価の方法	出席 (50%)、レポート・演習報告等 (50%) で評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	履修希望者は1回目の講義に必ず出席すること。		

科 目 名	臨床疫学	[科目番号：41818116]	
タ ー ム	S2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	水 2 & 水 1		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	臨床疫学研究のテーマは、日常臨床の中に潜んでいる。Clinical practice から research question を紡ぎ出し、研究仮説を立て、適切なデザインを構築し、利用可能なデータから意味のある分析結果を出し、臨床的に妥当な解釈を行う。これら一連のプロセスを遂行するために不可欠となる臨床疫学の理論および実践的な方法論を身につける。		
授 業 の 方 法	事前に渡された関連文献を熟読してくること。それを前提として講義で基礎的知識を提供・整理したのち、既存の研究を題材にディスカッションをしてもらい知識の体系化を図る。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) (6月6日1限) 臨床疫学の基礎知識 1 2) (6月6日2限) 臨床疫学の基礎知識 2 3) (6月13日1限) 症例対照研究/コホート研究の理論 4) (6月13日2限) コホート研究の実際 (吉村) 5) (6月20日1限) 健診・検診 6) (6月20日2限) 臨床診断 7) (6月27日1限) リスク・予後 8) (6月27日2限) ヘルスサービスリサーチ 9) (7月4日1限) 回帰分析の注意点 10) (7月4日2限) 傾向スコア分析(propensity score analysis) 11) (7月11日1限) 操作変数法(instrumental variable method) 12) (7月11日2限) 差の差の検定、回帰分断デザイン (笹渕) 13) (7月18日1限) 大規模データベースによる臨床疫学研究 14) (7月18日2限) 系統的レビューとコクラン (森) 15) 16) (7月25日1・2限) レポート発表会 ※講義の順番は変更することがある		
教 科 書	なし		
参 考 書	Fletcher RW & Fletcher SW. Clinical Epidemiology; The Essentials. Fifth Edition. Lippincott & Williams&Wilkins. 2012		
成績評価の方法	出席点 50 点、レポート 50 点		
他の授業との関連・履修上の注意	「疫学研究と実践」「医学データの統計解析」「医学研究のデザイン」などに関連する。「臨床疫学・経済学演習」と強く関連する。 非医師の学生で本講義の履修を希望する者は、S1 ターム「臨床医学概論」の履修を強く推奨する。		

科目名	臨床疫学・経済学演習 [科目番号：41818117]		
タ ー ム	A1A2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 4 & 木 3		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	<p>1. 医学英語論文の書き方を学ぶ 在学中から医学英語論文を書こうと真剣に考えている学生を対象とする。</p> <p>2. 研究費申請書の書き方を学ぶ 卒業後に研究費を申請することを真剣に検討している学生を対象とする。 各自の臨床または公衆衛生の経験をもとに研究テーマを確立し、研究の背景・目的・方法・期待される結果を記述し、研究経費の見積もり等を作成する、実践的なスキルを身につける。(論文執筆や研究費申請の経験の有無は問わない)</p>		
授 業 の 方 法	原則として、3 限は医学英語論文の書き方演習、4 限は研究費申請書 (文部科学研究費・若手研究または基盤 C のフォーマットに従う) 作成の個別指導。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>1) 9/27 3 限:医学論文を書くための準備(1) 4 限:研究費申請書の書き方(1)</p> <p>2) 10/4 3 限:医学論文を書くための準備(2) 4 限:研究費申請書の書き方(2)</p> <p>3) 10/11 3 限:Title の書き方 4 限:個別指導</p> <p>4) 10/18 3 限:Abstract の書き方 4 限:個別指導 10/25 (公衆衛生学会のため休み)</p> <p>5) 11/1 3 限:Introduction の書き方 4 限:研究計画の口頭説明</p> <p>6) 11/8 3 限:Methods &amp; Results の書き方 4 限:個別指導</p> <p>7) 11/15 3 限:Discussion の書き方(1) 4 限:個別指導</p> <p>8) 11/22 3 限:Discussion の書き方(2) 4 限:個別指導</p> <p>9) 11/29 3 限:Discussion の書き方(3) 4 限:個別指導</p> <p>10) 12/6 3 限:論文の Submission 4 限:個別指導</p> <p>11) 12/13 3 限:論文の Revision 4 限:個別指導</p> <p>12) 12/20 研究計画の中間発表</p> <p>13) 1/10 3 限:Reviewer comment の書き方(1) 4 限:個別指導</p> <p>14) 1/17 3 限:Reviewer comment の書き方(2) 4 限:研究費申請書の審査</p> <p>※講義・演習の順番は変更となることがある。</p>		
教 科 書	康永秀生. 必ずアクセプトされる医学英語論文 完全攻略 50 の鉄則. 金原出版 2016		
参 考 書	なし		
成績評価の方法	出席 30%、レポート 30%、最後に提出する研究費申請書 40%により評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>※履修・聴講ともに、「臨床疫学」講義の受講が必須。</p> <p>履修 (3・4 限ともに履修し単位取得) 希望者は、10 名程度まで受け入れ可。</p> <p>「臨床疫学」講義の受講者から、本演習の履修希望者を 7 月中に募集する。</p> <p>履修希望者が 10 名を超える場合は、「臨床疫学」講義の成績上位者を優先する。</p> <p>3 限のみの聴講は可能。(この場合も「臨床疫学」講義の受講は必須。単位取得はできないので注意)。4 限の聴講のみは不可。</p>		

科目名	保健医療経済学 [科目番号：41818118]		
タ ー ム	S1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	水 1 & 水 2		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	1. 医療経済学の基礎知識を身に着ける。 2. 医療経済学の考え方に沿って、現実の医療経済政策における個別の課題について考察する力をつける。		
授 業 の 方 法	講義、グループ・ディスカッション		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1) 医療経済学の基礎 1 (康永) (4月11日 1限) 2) 医療経済学の基礎 2 (康永) (4月11日 2限) 3) 保険の理論 (康永) (4月18日 1限) 4) 医療サービスの生産効率性 (康永) (4月18日 2限) 5) 医療サービス市場における競争・規制 (康永) (4月25日 1限) 6) 供給者誘発需要仮説 (康永) (4月25日 2限) 7) 医療経済学と医療政策 1 (康永) (5月9日 1限) 8) 医療制度の国際比較 (康永) (5月9日 2限) 9) 医療経済学と医療政策 2 (康永) (5月16日 1限) 10) 行動経済学 (後藤) (5月16日 2限) 11) 医療経済学と医療政策 3 (康永) (5月23日 1限) 12) 医療費増加の要因 (康永) (5月23日 2限) 13) 医療経済学と医療政策 4 (康永) (5月30日 1限) 14) 医療経済学と医療政策 5 (康永) (5月30日 2限) ※各講義の順番は変更することがある		
教 科 書	なし		
参 考 書	橋本英樹/泉田信行編. 医療経済学講義. 東京大学出版会		
成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%		
他の授業との関連・履修上の注意	「医療技術評価学演習」、「健康医療政策学」などに関連する。		

科 目 名	医療コミュニケーション学 [科目番号：41818120]		
タ ー ム	S1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 3 & 火 4		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	木内 貴弘		
授 業 の 目 的	<p>本講義の目的は、医療コミュニケーション（ヘルスコミュニケーション）の理論と実践を体系的に学習することにある。</p> <p>医療コミュニケーション学（ヘルスコミュニケーション学）とは、医療・公衆衛生分野を対象としたコミュニケーション学であり、保健医療専門職間、保健医療専門職と患者・市民間、患者・市民間等における健康や医療に関連した知識や情報などのコミュニケーションを対象とする。本講義では、保健医療・公衆衛生分野における専門職として効果的なコミュニケーションを実践するために必要な、(1)コミュニケーションの基本的な理論、(2)コミュニケーションの具体的な方略やスキル、(3)コミュニケーションの評価・分析方法等を取り扱う。本講義の受講によって、医療コミュニケーションを実践し、改善していくために必要な基礎的な知識を得ることができる。</p>		
授 業 の 方 法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各回1テーマの講義を行う。</li> <li>・ テーマに基づいた追加資料の配布やグループワークを行うことがある。</li> </ul>		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>4月10日3限 医療コミュニケーション学概論 木内貴弘</p> <p>4月10日4限 ヘルスコミュニケーションの研究：コミュニケーションの分析方法と実証研究</p> <p>4月17日3限 患者・市民の教育：賢い患者・市民を育てる取り組み 山口育子 (COML)</p> <p>4月17日4限 ヘルスコミュニケーション：がん対策への実践と応用 高山智子 (国立がん研究センター)</p> <p>4月24日3限 政策形成とアドボカシーのコミュニケーション：アドボカシーの概念と人材育成 神馬征峰 (国際地域保健学)</p> <p>4月24日4限 グループ・組織のコミュニケーション：多職種連携とリーダーシップ</p> <p>5月8日3限 ヘルスコミュニケーションの方略①個人の行動変容を促すコミュニケーション 石川雄一 (日本ヘルスサイエンスセンター)</p> <p>5月8日4限 ヘルスコミュニケーションの方略②：集団の行動変容を促すコミュニケーション 石川善樹 (キャンサーズキャン)</p> <p>5月15日3限 メディアコミュニケーション①：新聞 本田麻由美 (読売新聞)</p> <p>5月15日4限 ヘルスコミュニケーションの方略③：行動変容を促す保健医療文書の作り方 奥原剛</p> <p>5月22日3限 メディアコミュニケーション②：テレビ 市川衛 (NHK)</p> <p>5月22日4限 ヘルスコミュニケーションの方略④：エンターテイメント・エデュケーション 加藤美生</p> <p>5月29日3限 メディアコミュニケーション③：インターネット 中山和弘 (聖路加国際大学)</p> <p>5月29日4限 まとめ：グループ討論と総合討論 加藤美生、奥原剛</p>		
教 科 書	特に指定しない。		
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 石川ひろの 編. 人間関係論 (系統看護学講座 基礎分野). 医学書院. 2018</li> <li>・ 藤崎和彦、橋本英樹 著. 医療コミュニケーション研究会 編. 医療コミュニケーション—実</li> </ul>		

	<p>証研究への多面的アプローチ. 篠原出版新社. 2010</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Debra L. Roter &amp; Judith A. Hall 著. 石川ひろの、武田裕子 訳. 患者と医師のコミュニケーションーより良い関係作りの科学的根拠. 篠原出版新社. 2007</li> <li>・ Athena du Pre. Communicating About Health</li> </ul>
成績評価の方法	講義への出席 (30%)、レポート (70%) による。
他の授業との関連・履修上の注意	医療コミュニケーション学演習の前に受講することが望ましい。健康社会学、健康教育学、医学研究と CDISC 標準などに関連する。

科目名	医療コミュニケーション学演習			[科目番号：41818122]
ターム	S2	単位数	2	
曜日・授業時間帯	水 4 & 水 3			
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室			
担当教員	木内 貴弘			
授業の目的	効果的な医療コミュニケーション (ヘルスコミュニケーション) を行うために必要なスキルを、対人コミュニケーション、メディアを通じたコミュニケーションそれぞれ具体的にに取り上げ、演習を行うことによって、「医療コミュニケーション学」の講義で学んだ理論や方略に対する理解を深めるとともに、具体的な医療コミュニケーションの場 (医療機関、官公庁、教育機関、研究機関、患者支援組織、マスコミ等) でこれらを生かすことができるようにすることを目的とする。			
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>各回、課題にもとづいて演習・発表・討論を行う。</li> <li>演習毎にプレゼンテーション、レポート提出、相互評価等を行う。</li> </ul>			
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>6月6日(水)3-4限 文書によるコミュニケーション：行動変容を促す保健医療文書を作る(1) 奥原剛</p> <p>6月13日(水)3限 文書によるコミュニケーション：行動変容を促す保健医療文書を作る(2) 奥原剛</p> <p>6月13日(水)4限 インターネットによる情報発信：インターネット演習(1) 木内貴弘、岡田昌史</p> <p>6月20日(水)3-4限 メディア報道のあり方を考える：メディアドクター演習 渡邊清高 (帝京大学)</p> <p>6月27日(水)3-4限 自分を知る・相手を知る：MBTI (Myers-Briggs Type Indicator) 演習(1) 園田由紀 (日本 MBTI 協会)</p> <p>7月4日(水)3-4限 自分を知る・相手を知る：MBTI 演習(2) 園田由紀 (日本 MBTI 協会)</p> <p>7月11日(水)3-4限 自分を知る・相手を知る：MBTI 演習(3) 園田由紀 (日本 MBTI 協会)</p> <p>7月18日(水)3-4限 行動変容を支援するスキル：コーチング演習 田口智博 (三重大学)</p> <p>7月25日(水)3-4限 インターネットによる情報発信：インターネット演習(2) 木内貴弘、岡田昌史</p>			
教科書	特に指定しない。			
参考書	<ul style="list-style-type: none"> <li>石川ひろの 編. 人間関係論 (系統看護学講座 基礎分野). 医学書院. 2018</li> <li>田近秀敏：[実践]ビジネス・コーチングプロフェッショナル・コーチの工具箱、PHP 研究所、2003</li> <li>園田由紀 (訳)：MBTI への招待—C.G.ユングの「タイプ論」の応用と展開、金子書房、2002</li> </ul>			
成績評価の方法	演習への参加 (50%)、演習内でのプレゼンテーション (20%)、作成した資料・レポート (30%) によって評価する。演習への参加が前提となるため、やむを得ず欠席する場合には、事前に事情を届け出ること。特に MBTI 演習は3回とも出席できることを前提とする。			
他の授業との関連・履修上の注意	「医療コミュニケーション学」講義を受講していることが望ましい。 MBTI 演習については原則として聴講を認めない。			

科目名	医療技術評価学演習 [科目番号：41818124]		
タ　　ー　　ム	A2	単　　位　　数	1
曜日・授業時間帯	木 2		
場　　　　所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担　　当　　教　　員	康永 秀生		
授　　業　　の　　目　　的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療技術評価(Health Technology Assessment &amp; HTA)の基本を身に着ける。</li> <li>・費用効果分析のための臨床アウトカム及びコスト情報の収集、QOL 評価、決定樹・マルコフモデルの作成、費用対効果の算出、感度分析などの一連の医療経済評価手法を学ぶ。</li> </ul>		
授　　業　　の　　方　　法	系統講義と演習。一部、電卓やパソコンを用いた演習を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. (11 月 22 日) 医療技術評価学の基礎 (康永)</li> <li>2. (11 月 29 日) QOL 評価 (五十嵐)</li> <li>3. (12 月 6 日) 費用効果分析・その 1 (康永)</li> <li>4. (12 月 13 日) 費用効果分析・その 2 (康永)</li> <li>5. (12 月 20 日) メタアナリシス (白岩)</li> <li>6. (1 月 10 日) 国内外の医療技術評価の動向(福田)</li> <li>7. (1 月 17 日) 医薬品及び医療機器の経済評価 (田倉)</li> <li>8. (1 月 24 日) 医療技術評価と医療政策 (池田)</li> </ol> <p>※講義の順番は変更することがある</p>		
教　　科　　書	なし		
参　　考　　書	Drummond MF & et al. Methods for the Economic Evaluation of Health Care Programmes Third Edition. 2005		
成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%		
他の授業との関連・履修上の注意	「保健医療経済学」、「臨床疫学」の各講義と関連する。		

科目名	臨床医学概論 [科目番号：41818126]		
タ ー ム	S1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	木 2		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	康永 秀生		
授 業 の 目 的	非医師の学生向け。 臨床医学に関する基礎知識を身に着ける。 医学用語を習得し、医学論文を読むための基礎力を養う。		
授 業 の 方 法	系統講義を通じて、解剖・生理、診断・治療および疾患の疫学について要点を解説する。 また、医学用語（日本語・英語）を解説し、基礎的な医学論文の読解を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	1. 脳神経 (4/5) 2. 循環器・呼吸器 (4/19) 3. 消化器 (4/26) 4. 腎・泌尿器、生殖器 (5/10) 5. 感覚器、運動器(5/17) 6. 感染症、中毒、血液(5/24) 7. 内分泌・代謝、膠原病・アレルギー(5/31) ※講義の順番は変更することあり		
教 科 書	なし 毎回、テーマ毎に資料が配布される		
参 考 書	なし		
成績評価の方法	出席 50%、レポート 50%		
他の授業との関連・履修上の注意	「疫学研究と実践」、「医学研究のデザイン」と関連する。 「臨床疫学」と強く関連する。 非医師の学生で「臨床疫学」講義の履修を希望する者は、本講義の履修を強く推奨する。		

科目名	医学研究と CDISC 標準 [科目番号：41818127]		
ターム	A1	単位数	1
曜日・授業時間帯	火 3		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	木内 貴弘、石川 ひろの		
授業の目的	<p>臨床研究の電子データ交換の国際標準として、日本および米国の薬事申請で必須とされている規格である CDISC(Clinical Data Interchange Standards Consortium)標準と、その背景となる臨床研究データマネジメント論について講義を行う。CDISC 標準は、臨床研究データ、およびそれに付随するメタデータの規格であり、臨床試験情報の電子的な収集、交換、申請、アーカイブ化等、研究実施のあらゆる場面で活用が可能である。</p> <p>広く普及した医療情報交換規格およびその成立背景について知ることを通じて、データの相互運用性(Interoperability)の重要性を学ぶとともに、医学・疫学・IT の学際的分野である臨床研究データマネジメントの実際について触れることを目的とする。</p>		
授業の方法	初回に全体の総論、2 回目以降に各論について、スライド、配布資料を用いて、講義及び質疑応答を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>9 月 25 日(火)13:00-14:45 I. CDISC 標準概論:CDISC 標準とは 木内貴弘/千葉吉輝(株式会社 ChibaPlanningOffice)</p> <p>10 月 2 日(火)13:00-14:45 II. 臨床研究データマネジメント概論:臨床研究データマネジメントとは 岡田昌史</p> <p>10 月 9 日(火)13:00-14:45 III. データとメタデータ - Define.xml、CDISC Define.xml 岡田昌史</p> <p>10 月 16 日(火)13:00-14:45 IV. Case Report Form の標準化 - CDASH/ データ形式の標準化 - SDTM Clinical Data Acquisition Standards Harmonization / Study Data Tabulation Model 岡田昌史</p> <p>10 月 23 日(火)13:00-14:45 V. 解析データセットの標準化 - ADaM Analysis Data Model 大津 洋(国立国際医療研究センター)</p> <p>10 月 30 日(火)13:00-14:45 VI. Therapeutic Area Standards : 疾患領域別データ標準 森豊 隆志 (臨床研究ガバナンス部)</p> <p>11 月 6 日(火)13:00-14:45 VII. CDSIC 標準による電子申請:日本における新薬承認申請の現状と展望 安藤 友紀 (医薬品医療機器総合機構)</p>		
教科書	教材として、スライドのハンドアウトを各回に配布する。また CDISC ホームページ ( <a href="http://www.cdisc.org/">http://www.cdisc.org/</a> ) を必要に応じ、参照すること。		
参考書	特に指定しない。		
成績評価の方法	出席(50%)及びレポート(50%)により総合的に評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	医学データの統計解析、医学研究のデザイン、公共健康情報学、医療情報システム学、医療コミュニケーション学と関係を有し、共に受講することが望ましい。		

科目名	がん疫学 [科目番号：41818128]		
ターム	A1	単位数	1
曜日・授業時間帯	月 4		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	井上 真奈美		
授業の目的	<p>「がんの疫学」について、専門家として必要な知識を体系的に習得する。集団レベルでのがんの予防をめざすには、その背景にあるがんの地理的分布や推移を把握した上で、予防に向けた要因の解明が必須である。具体的には、がん記述統計の必須基盤としてのがん登録手法、がんの要因を解明するための分析疫学研究、近年注目されているゲノム疫学手法、一つ一つの疫学的エビデンスを施策に結びつけるための橋渡し研究であるシステムティック・レビューやメタ・アナリシス、統合解析、エビデンスに基づくがん予防法やその普及実装のための研究、がん検診の</p>		
授業の方法	講義、課題発表		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 講義：がん疫学の概要（地理的分布、推移、がんの要因）（10/1、4 限）</li> <li>2) 講義：がん疫学研究（研究手法）（10/15、3 限）</li> <li>3) 講義：がん疫学研究におけるゲノム疫学（10/15、4 限）</li> <li>4) 講義：がん要因の評価と予防法、がん検診（10/22、3 限）</li> <li>5) 講義：がん予防の普及・実装研究（10/22、4 限）</li> <li>6) 講義：がん疫学研究（研究から評価への流れと研究手法やその動向）（10/29、4 限）</li> <li>7) 課題発表（11/5、4 限）</li> </ol>		
教科書	指定なし。		
参考書	指定なし。		
成績評価の方法	出席（50%）、課題発表と発表資料の提出（50%）		
他の授業との関連・履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疫学の基礎が理解できていること。</li> <li>・10/15 &amp; 10/22 は、講義が 3、4 限と開講されるのに注意すること。</li> </ul>		

科目名	精神保健学 I [科目番号：41818211]		
タ ー ム	S1S2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 5		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	川上 憲人		
授 業 の 目 的	精神保健の疫学を理解し、効果的な第一次、第二次、第三次予防対策を立案することができるようになるために、精神保健疫学の基礎および精神保健対策の科学的根拠を学ぶと同時に、事例研究 (ケーススタディ) を通じて基礎的かつ実践的な能力を身につけることを目的とする。		
授 業 の 方 法	各回 1 つのテーマについて担当教員 (または外部講師) による講義と討議、質疑を行う。学生は各回の課題について事前に調べ持参する。課題発表 1 および 2 の回では、学生がグループでテーマに関して発表し、これに担当教員が補足を行い、全員で討論する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4 / 1 0 (1) オリエンテーション、総論 (川上) 4 / 1 7 (2) 精神疾患の疫学 (川上) 4 / 2 4 (3) 精神健康の評価 (川上) 5 / 1 休講 5 / 8 (4) 精神健康のスクリーニング (川上) 5 / 1 5 (5) 第一次予防と心理社会的支援 (宮本、今村) 5 / 2 2 (6) 精神保健のサービス利用 (川上) 5 / 2 9 (7) 課題発表 1 : 科学的根拠に基づく精神保健対策 6 / 5 (8) トピックス① : 自殺予防対策はどう進める (外部講師) 6 / 1 2 (9) トピックス② : 認知症在宅ケアの室を改善する (外部講師) 6 / 1 9 (10) トピックス③ : 薬物使用は犯罪か病気か (外部講師) 6 / 2 6 休講 7 / 3 (11) トピックス④ : 災害時の精神保健 (金) 7 / 1 0 (12) 発表準備 7 / 1 7 (13) 課題発表 2 : 精神保健対策を立案する (5, 6 限) ※ ※最終回のみ授業時間が 16:50-20:30 となるので注意すること。		
教 科 書	教科書は指定しない。毎回、講義資料を配付する。		
参 考 書	特になし		
成績評価の方法	出席 (30%)、毎回の事前学習 (10%)、課題発表 2 (30%)、個人レポート (30%) により総合的に評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	※最終回のみ授業時間が 16:50-20:30 となるので注意すること。		

科目名	精神保健学Ⅱ	[科目番号：41818212]	
タ ー ム	A1A2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 5		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	川上 憲人		
授 業 の 目 的	職場のメンタルヘルスの専門職として必要とされる知識・技術を、講義および事例研究とその後の討論によって習得することを目的とする。具体的には、制度・法規、利用者の状態および特性を踏まえた対応、関連職種間の連携、近年の社会経済情勢を踏まえた対策について学び、具体的な対策を現場で進めることのできる能力を養成する。		
授 業 の 方 法	各回 1 テーマの講義あるいは事例研究 (ケーススタディ) 担当教員 (または非常勤講師) による講義と全員での討論。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	10/ 2 コース概要, 産業精神保健総論 10/ 9 産業保健マネジメントの中でのメンタルヘルス対策 10/16 メンタル不調者対応の基本的な枠組み・専門職が留意すべきこと 10/23 労働者の睡眠とメンタルヘルス 10/30 組織・個人の活性化とポジティブメンタルヘルス 11/ 6 労働者の復職支援プログラム 11/13 職場のメンタルヘルスと両立支援 11/20 職場のメンタルヘルスの一次予防① 11/27 職場のメンタルヘルスの一次予防② 12/ 4 職場のいじめとメンタルヘルス 12/11 経営と産業保健は協調できるか? 12/18 健康経営と職場のメンタルヘルス 12/25 これからの職場のメンタルヘルス		
教 科 書	毎回、講義資料を配付する。		
参 考 書	川上憲人. 基礎からはじめる職場のメンタルヘルス—事例で学ぶ考え方と実践ポイント. 大修館 & 2016		
成績評価の方法	出席 (30%)、レポート (70%) により総合的に評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	精神保健疫学と対策の基礎について学ぶ「精神保健学Ⅰ」を受講していることが望ましい。		

科 目 名	健康教育学 [科目番号：41818213]		
タ ー ム	A2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 1 & 金 2		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	橋本 英樹		
授 業 の 目 的	生活習慣・健康行動変容に関する理論を講義でまず鳥瞰した後、各理論のフレームを用いて実践的プログラム立案を行う上での長所・短所・限界点をクラス内ディスカッション・レポートで深める。 This lecture course will provide a quick review of behavioral theories related to health intervention & by applying them to case scenarios. Then & invited		
授 業 の 方 法	講義、グループディスカッション、ケースメソッドなどを組み合わせる。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	11/30 (1) 1 限 Micro-meso level theories of behavioral science applied (橋本) 11/30 (2) 2 限 Macro level theories of community organization applied (橋本) 12/7 (3) 1 限 Empowerment approach in community I (岩永) 12/7 (4) 2 限 Empowerment approach in community II (岩永) 12/14 (5) 1 限 Social marketing applied to physical activities (鎌田) 12/14 (6) 1 限 Public message design for health promotion (林) 12/21 (7) 1 限 Health marketing in workplace I (戸津崎) 12/21 (8) 2 限 Health marketing in workplace II (戸津崎) 1/18 (9) 1 限 Health literacy and ethics of behavioral modification (橋本) 1/18 (10) 2 限 Public intervention for community health (馬場) 1/25 (11) 1 限 Decision making and behavior (橋本) 1/25 (12) 2 限 Wrap-up discussion (橋本)		
教 科 書	handouts and reading materials will be distributed beforehand.		
参 考 書	Glanz K & et al. Health Behavior and Health Education; Theory & Research and Practice. 4th eds. John Willey and Sons & 2008 畑 栄一 & 土井 由利子. 行動科学—健康づくりのための理論と応用. 南江堂 第 2 版 : 他、適宜配布		
成績評価の方法	出席ならびに講義中発言(40%)・課題およびレポート(60%)		
他の授業との関連・履修上の注意	積極的発言・参加を高く評価する.講義中以外(休み時間)の質問は原則受け付けない		

科 目 名	健康社会学 [科目番号：41818214]		
タ ー ム	A1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 1 & 金 2		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	橋本 英樹、高木 大資		
授 業 の 目 的	<p>社会学を基本軸として、健康を社会的文脈で考察する知的基盤を提供する。具体的には社会学理論を鳥瞰したうえで、健康科学との接点として医療・医師・社会的健康決定要因などを題材として取り扱う。</p> <p>Will provide sociological theory basis to consider health in social context rather than in bio-medical frame. Specific focus will be put on themes such as social stratification and health, health impacts of built environment and social environment, medicalization and clinical gaze, and sociology of body/embodiment.</p>		
授 業 の 方 法	講義と in-class discussion		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>9/28 (1) 1 限 Perspective of sociology and health sociology (橋本)</p> <p>9/28 (2) 2 限 Social stratification and socioeconomic status (橋本)</p> <p>10/5 (3) 1 限 Social stratification and health (橋本)</p> <p>10/5 (4) 2 限 Social relationship and health (杉澤)</p> <p>10/12 (5) 1 限 Sociology of community applied to health (高木)</p> <p>10/12 (6) 2 限 Social network analysis (高木)</p> <p>10/19 (7) 1 限 Complementary/alternative healthcare (中山)</p> <p>10/19 (8) 2 限 Sociolgy of school health (朝倉)</p> <p>10/26 公衆衛生学会のため休講</p> <p>11/2 (9) 1 限 Lay epidemiology &amp; illness behavior (橋本)</p> <p>11/2 (10) 2 限 Sociology of body and embodiment (橋本)</p> <p>11/9 (11) 1 限 World of medicine; archeological perspective (橋本)</p> <p>11/9 (12) 2 限 World of chronically ill; phenomenological view (橋本)</p> <p>11/16 (13) 1 限 open discussion (橋本・高木)</p>		
教 科 書	handouts and reading materials will be distributed beforehand		
参 考 書	<p>Lupton D. Medicine as culture; illness &amp; disease &amp; and the body. 2nd eds. SAGE &amp; 2003</p> <p>他、適宜配布</p>		
成績評価の方法	出席ならびに講義中発言(40%)・課題およびレポート(60%)		
他の授業との関連・履修上の注意	積極的発言・参加を高く評価する。講義時間以外(休み時間)の質問は原則受け付けない		

科目名	医療倫理学 I [科目番号：41818218]		
ターム	S1	単位数	2
曜日・授業時間帯	木 5 & 木 6		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	赤林 朗、瀧本 禎之、中澤 栄輔		
授業の目的	公衆衛生領域の政策決定や臨床現場における倫理的判断の基礎となる倫理・哲学的な考え方を教える。医療倫理学総論、インフォームド・コンセント、研究倫理などを取り上げ、全体講義と少人数討論（ディベート）を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。		
授業の方法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	(1) 生命・医療倫理学とは / 倫理学の基礎 1 (2) 倫理学の基礎 2 / 医療倫理の原則と重要概念 (3) 臨床症例の倫理的検討法 (4) ケアの倫理 / 生殖補助医療 (5) IC の法理 / 終末期医療 (6) 守秘義務 / 研究倫理 (7) 模擬倫理委員会		
教科書	印刷物を配布する		
参考書	・ 赤林朗（編著）『入門・医療倫理 I』〔改訂版〕勁草書房 ・ Jonsen & A.R. et al. 著（赤林、蔵田、児玉監訳）『第 5 版臨床倫理学—臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』新興医学出版 ・ 赤林朗編著 『ケースブック 医療倫理』 医学書院 ・ Hope & T. 著（児玉聡・赤林朗訳）『一冊で分かる医療倫理』岩波書店		
成績評価の方法	平常点（30%）、及び最終レポート（70%）により評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	「医療倫理学特論 II」受講の基礎となる内容である。		

科目名	医療倫理学Ⅱ [科目番号：41818219]		
ターム	S2	単位数	2
曜日・授業時間帯	木 5 & 木 6		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	瀧本 禎之、中澤 栄輔		
授業の目的	公衆衛生倫理と臨床倫理コンサルテーションの 2 つの領域に関して実践的な知識を涵養するために、全体講義と少人数討論 (ディベート) を行う。学生は、講義を聴講するとともに、レポートを提出することが求められる。		
授業の方法	各回、最初に全体講義を行い、当該テーマに関する必要知識を教授する。さらに、当該知識を実践に活用するための訓練として、少人数のグループに分かれ、用意した課題に関してディスカッションを行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	(1) 公衆衛生倫理入門 (2) 公衆衛生・政治哲学 (3) 健康格差と正義 I / 医療における意思決定 (4) 健康格差と正義 II / 倫理コンサルテーション I (5) 資源配分 / 倫理コンサルテーション II (6) 新型インフルエンザ / 倫理コンサルテーション III (7) 研究者の倫理と不正 / 倫理コンサルテーション IV		
教科書	印刷物を配布する。		
参考書	・ 赤林朗(編著) 『入門・医療倫理 I』 勁草書房 ・ Jonsen & A.R. et al. 著 (赤林、蔵田、児玉監訳) 『第 5 版臨床倫理学—臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ』 新興医学出版 ・ 赤林朗編著 『ケースブック 医療倫理』 医学書院 ・ Hope & T. 著 (児玉聡・赤林朗訳) 『一冊で分かる医療倫理』 岩波書店		
成績評価の方法	平常点 (30%)、及び最終レポート点数 (70%) により評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	医療倫理学 I の内容を前提とする。		

科目名	社会と健康 I [科目番号：41818220]		
タ ー ム	A1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	木 2 & 木 1		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	近藤 尚己、川上 憲人、橋本 英樹		
授 業 の 目 的	<p>貧困や社会関係、差別など、健康に影響を与える社会的な要因 (Social Determinants of Health: SDH) についての理論と最近の知見を学ぶ。関連する社会疫学等の分野でよく用いられる計量分析手法の基本的な考え方も伝える。</p>		
授 業 の 方 法	講義・事前配布資料・レポート		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>1) 社会疫学概論 (近藤) 9/27 1 限  2) 個人と社会の関係 (橋本) 9/27 2 限    3) 社会経済状況 (近藤) 10/4 1 限  4) 景気動向・所得格差 (近藤) 10/4 2 限    5) 社会関係 (近藤) 10/11 1 限  6) ソーシャル・キャピタル (近藤) 10/11 2 限    7) 胎児期からの社会環境：ライフコース疫学 (藤原) 10/18 1 限  8) 差別・職業 (川上) 10/18 2 限    9) ジェンダー格差 (本庄) 11/1 2 限  10) 健康の平等と倫理 (児玉) 11/1 2 限    11) 社会疫学の因果推論 (近藤) 11/8 1 限  12) 健康格差の制御方法 (近藤) 11/8 2 限</p> <p>講師の都合により日時変更の可能性あり。</p>		
教 科 書	川上憲人ほか「社会と健康：健康格差解消に向けた統合科学的アプローチ」東大出版会		
参 考 書	「予防医学のストラテジー」ジェフリー・ローズ／近藤尚己「健康格差対策の進め方」		
成績評価の方法	出席および講義中のディスカッション 40%・レポート 60%		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>事前配布資料には各講義までにざっと目を通しておくこと。</p> <p>健康科学・看護学専攻「健康社会学特論 I」および公共政策大学院「社会と健康 I」との共通開講科目。</p> <p>【関連コース】「社会と健康 II」では、本コースを基礎として、健康の社会的決定要因に関する知見をどのようにパブリック・ヘルスへ応用するか、健康格差の課題へどう対応するかについて実践的に学ぶ。</p>		

科目名	社会と健康 II [科目番号：41818221]		
ターム	A2	単位数	2
曜日・授業時間帯	金 3 & 金 4		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	近藤 尚己、高木 大資		
授業の目的	社会環境にアプローチするヘルスプロモーションと健康格差対策の理論と実践について事例とともに実践的に学ぶ。毎回グループディスカッションの時間を十分にとり、意見を出し合い考えることを重視する。最終日は受講者自らが調べた内容の発表を行う。		
授業の方法	講義・討論・レポート・課題発表		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>1・2) 健康格差対策の国際動向と基本概念 11/30 3・4 限</p> <p>3・4) 連携とガバナンス/行動科学の応用 12/7 3・4 限</p> <p>5) 健康格差指標とそのモニタリング 12/21 3 限</p> <p>6) 健康格差対策にむけた合意形成手段 12/21 4 限</p> <p>7・8) 健康影響評価(HIA)演習 (藤野) 1/11 3・4 限</p> <p>9) ヘルスコミュニケーションによる健康格差対策 (石川) 1/18 3 限</p> <p>10) 都市環境と健康・犯罪 (高木) 1/18 4 限</p> <p>11・12) 課題発表 1/25 3 限・4 限</p> <p>講師の都合により日程を変更する可能性がある。</p>		
教科書	近藤尚己「健康格差対策の進め方：効果をもたらす5つの視点」(医学書院)		
参考書	健康格差指標都モニタリング演習では、米国 National Cancer Institute の研究用フリーソフト Health Disparity Calculator (HD*Calc) を使用する。		
成績評価の方法	出席と態度(30%)・レポート(40%)・課題発表 (30%)		
他の授業との関連・履修上の注意	「社会と健康 I」に出席することが望ましい。健康教育学・健康社会学・医療コミュニケーション学などに関連する。公共政策大学院との合同開講。 アンケート結果を受け、グループディスカッションの時間をさらに増やし活発に意見交換できるようにした。		

科 目 名	産業保健の理論と実践 [科目番号：41818222]		
タ ー ム	A1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	水 2 & 水 1		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	川上 憲人、大久保 靖司		
授 業 の 目 的	<p>産業保健について最近の動向と国際的視点についての最新の情報を講義すると同時に、演習を通じて産業保健を職場で遂行するための理論的背景の理解及び実践的技術の基礎を習得することを目的とする。特に、演習では、産業保健の計画と評価、事例分析、職場巡視及び参加型職場改善手法と取り上げており実践的な技術を習得することができる。また、課題を提示し、課題に対する企画立案を行う Project based learning を行い、その結果のプレゼンテーションまでを行うことでプロジェクト遂行のために必要な技術を修得する。本科目においては、産業保健の基礎的な学習を修了していない者も第1回の産業保健関連法制度・産業保健総論を受講することで必要な基礎知識を修得することができる。</p>		
授 業 の 方 法	講義、事例検討 (ディスカッション及びグループワーク)、Project Based Learning		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>9/26 第1回 産業保健総論 第2回 産業保健関連法制度 10/3 第3回 産業保健の国際動向 第4回 産業保健と雇用 10/10 第5回 産業保健のマネジメント 第6回 産業保健と倫理 10/17 第7回 産業保健と経済 第8回 産業保健と健康リスク管理 10/24 第9回 化学物質のリスク管理 第10回 産業保健の計画と評価 10/31 第11回 職場巡視 第12回 産業保健の事例分析 I、II 11/7 第13回 参加型職場環境改善 I、II 第14回 11/14 第15回 演習：課題発表 II 第16回</p>		
教 科 書	指定しない。		
参 考 書	指定しない		
成績評価の方法	出席(40%)、課題発表及びレポート(60%)		
他の授業との関連・履修上の注意	特になし 精神保健学Ⅱ、健康危機管理学、医療安全管理学、環境健康医学と関連する。		

科目名	保健医療人材育成学			[科目番号：41818223]
ターム	S1	単位数	2	
曜日・授業時間帯	火 2 & 火 1			
場 所	医学部総合中央館（医学図書館）3F M1 室			
担当教員	大西 弘高			
授業の目的	保健医療分野における人材育成とは、地域や国における保健・医療のニーズに対し、医療人材育成やその制度の開発によって、改善するプロセスである。この科目では、学習や教育に関する理論、カリキュラム開発、プログラム評価、インストラクショナル・デザインの考えを理解しつつ、自らコースや授業を組み立て、評価できるような能力を培うことを目的とする。			
授業の方法	毎回アクティブラーニングを含めた授業を展開する。プロジェクト発表は、①学生が他の学生の前でプレゼンテーション、②プロジェクト発表について振り返った後、レポートを提出、の両方を評価する。			
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	4月10日 医療人材育成とは、ワークショップとワールドカフェ 4月17日 インストラクショナル・デザイン、講義技法 4月24日 プロジェクト発表1 5月1日 カリキュラム開発：カリキュラムとは、ニーズ評価、教育・学習目標 5月8日 カリキュラム開発：方略、実施、評価 5月15日 医療人材育成の最新トピックス：professionalism、IPE、地域基盤型 5月22日 プロジェクト発表2			
教科書	特になし			
参考書	Kern ら「医学教育プログラム開発」、Harden ら「医学教育を学び始める人のために」、は参考になる。			
成績評価の方法	出席（20%）、プロジェクト発表（40%）、振り返りレポート（40%）			
他の授業との関連・履修上の注意	医学部総合中央館（医学図書館）3F M1 室で実施します。			

科目名	学習者評価学 [科目番号：41818224]		
タ　　ー　　ム	A1	単　　位　　数	2
曜日・授業時間帯	火 1 & 火 2		
場　　所	医学部総合中央館（医学図書館）3F M1 室		
担　当　教　員	大西 弘高		
授　業　の　目　的	<p>学習者評価は、人材育成、教育、研修などを行った後に、学習が想定したように行われたかを確認するために行う教育的に非常に重要な活動の一つである。学習者評価の手法は近年ますます多様化し、適切な方法を選択し、組み合わせることは簡単でなくなってきた。この授業では、学習者評価に関して様々な側面から最新の理論を提示すると共に、そのデータをプログラム評価や研究に用いることも想定し、適切な評価手法の組み合わせ方、データの信頼性・妥当性といった側面に関して論じることができるレベルを目指す。</p>		
授　業　の　方　法	<p>毎回テーマに応じた講義とグループディスカッション、一部コンピュータ上で行うデータ解析の作業。グループ発表など。</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>9月25日 ①教育介入の評価と研究、②評価・評定と心理測定  10月2日 ①学習目標と評価手法の関係、②筆記試験と CBT  10月9日 ①学習者評価の妥当性（よい学習者評価とは）、②合否判定基準設定  10月16日 プロジェクト発表1、①実技試験（OSCE）  10月23日 ②信頼性と一般化可能性理論、①業務基盤型評価（ポートフォリオ）  10月30日 ①臨床現場における評価、②プログラム評価と研究  11月6日 プロジェクト発表2</p>		
教　科　書	特になし		
参　考　書	特になし		
成績評価の方法	最終評価：出席（20%）、プロジェクト発表（40%）、振り返りレポート（40%）		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>Microsoft Excel、またはそれに類した表計算ソフトウェアの入ったコンピュータ持参が必須になる。  医学部総合中央館（医学図書館）3F M1 室で実施する。</p>		

科目名	日本の医療と地域保健 Health Care and Community Health in Japan [科目番号：41818225]		
ターム	S2	単位数	1
曜日・授業時間帯	月 4		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	川上 憲人		
授業の目的	<p>英語により日本の保健医療制度およびサービスについて概説し、日本の保健医療制度をグローバルな視点から学ぶ機会を提供すると同時に、学生の保健医療制度に関する国際的なコミュニケーション能力を向上させる。</p> <p>This class will provide an overview of health care system and services in Japan &amp; to provide opportunities of viewing health care system and services in Japan from a global perspective and to promote the ability of students on international communication on the topics of health care system and service.</p>		
授業の方法	<p>授業は英語で行う。原則として、授業時間の半分を講義、半分は学生による討議と質疑とする。各回とも最後にレポート課題を提示する。</p> <p>Classes will be taught in English. Each class consists of lecture and question/discussion &amp; with a presentation of a report subject.</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>Date Contents (faculty member)</p> <p>June 4 #1. Introduction to health care system in Japan (Prof. Kobayashi)</p> <p>June 11 #2. Where do we stand in maternal and child health services? - Lessons from the past and current challenges - (Part-time lecturer)</p> <p>June 18 #3. Mental health and disability (Prof. Kawakami &amp; Dr. Baba)</p> <p>June 25 #4. Elderly care (Prof. Hashimoto)</p> <p>July 2 #5. Occupational health (Prof. Kawakami)</p> <p>July 9 #6. Health-related big data in Japan (Prof. Yasunaga)</p> <p>July23 #7. Social disparity in health (Assoc. Prof. Kondo)</p>		
教科書	指定しない。 Not designated.		
参考書	The Lancet – Japan: Universal Health Care at 50 Years: <a href="http://www.thelancet.com/series/japan">www.thelancet.com/series/japan</a>		
成績評価の方法	出席(50%) およびレポート(50%) Class attendance (50%) & and Report (50%)		
他の授業との関連・履修上の注意	レポートは、各教員から示されたもののうち2つのテーマを選び、MS ワードあるいはPDF形式で、8月1日までに電子メールで< utsph@gmail.com >まで提出すること。 A student report on two topics selected from those indicated by a faculty member in charge of each class should be prepared in a MS Word or PDF format and submitted via e-mail to < utsph@gmail.com > by August 1.		

科 目 名	健康医療政策学	[科目番号：41818311]	
タ ー ム	A1A2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月 5		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	小林 廉毅、豊川 智之		
授 業 の 目 的	疾病予防対策、医療保険制度、医療提供体制、医療評価など、種々の健康・医療に関わる制度・政策の背景並びに立案・実施、報道、社会への影響について、様々なステークホルダーの立場、関連の法令、費用負担のあり方などを学習するとともに、実際の事例を通じて理解を深める。		
授 業 の 方 法	講義、ゲストスピーカーによる報告、質疑応答・討論などによる。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	① 10/1 健康医療政策とはなにかーイントロダクション (小林) ② 10/15 地域医療構想の実現に向けたデータの活用 (ゲストスピーカー) (小林) ③ 10/22 医療の質の測定 (東) ④ 10/29 科学的根拠に基づく政策 (がん対策) (東) ⑤ 11/5 わが国の喫煙対策をめぐる議論 (ゲストスピーカー) (小林) ⑥ 11/12 特定健診・保健指導の現状と課題 (李) ⑦ 11/19 (4 時限 14:55-16:40) 特別講義 (馬場園講師) ⑧ 11/19 (5 時限 16:50-18:35) // ( // ) ⑨ 11/26 医療行政の現場 (ゲストスピーカー) (小林) ⑩ 12/3 医療へのアクセスと医療政策 (豊川) ⑪ 12/10 日本における医療政策決定過程ーメディアからの視点 ⑫ 12/17 (4 時限 14:55-16:40) 政策課題プレゼンテーション(1) (学生) ⑬ 12/17 (5 時限 16:50-18:35) 政策課題プレゼンテーション(2) (学生) ⑭ 1/7 (予備日)		
教 科 書	なし		
参 考 書	「国民衛生の動向」(厚生統計協会)		
成績評価の方法	出席(約 60%)、授業でのプレゼンテーション・ミニレポート(約 40%)に基づいて評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	11/19 および 12/17 については、4 時限にも授業を予定している。 聴講者、他学部聴講者については初回授業でその旨を責任教員に伝えること。		

科目名	医療情報システム学 [科目番号：41818312]		
ターム	S1	単位数	2
曜日・授業時間帯	金 4 & 金 3		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	大江 和彦		
授業の目的	現在の医療が抱える課題を IT による解決していくにはどうしたらよいかについて理解し、臨床的なエビデンスや医療変革のための知見を得るための基盤情報システムとしての電子カルテやレセプトなどの医療情報データベースの意義と課題を理解する。また医療情報がどのように医療サービスシステムの中で管理・活用されるべきかについて議論する。こうしたことを通じて現在の医療システムの変革につなげる方策と制度との関連性を学ぶ。また医療データを扱う上で避けて通れないデータのコーディングと標準化の重要性、暗号化を含むセキュリティ技術についても理解する。さらに人工知能技術 (AI) とりわけ機械学習と深層学習についてその基本的な手法と医療データへの適用に関する展望と課題を学ぶ。		
授業の方法	医療サービスやそれに関わる医療 IT 政策、地域医療におけるフィールド実証実験に関するテーマを順にとりあげ、それぞれにおいて医療情報システム、データベース、情報通信技術 (IT)、法令や制度がどのようにに関わり、課題と関連しているかについて講義し、議論する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>4月6日 (初回) に全体の授業計画を説明する。全体は13コマからなる。各回のテーマを入れ替えることがあり、下記のテーマ順序はおおよその例示である。</p> <p>1) 4月6日 2コマ 医療情報化政策と関連する情報技術基盤、制度の概要</p> <p>2) 4月13日 2コマ 電子カルテシステム、医療情報の標準化</p> <p>3) 4月20日 2コマ 医療情報データベース—レセプト NDB と MID-NET DB</p> <p>4) 4月27日 2コマ 情報ネットワーク技術と個人情報保護</p> <p>5) 5月11日 2コマ 地域医療情報ネットワーク・モバイル IT 医療</p> <p>6) 5月18日 2コマ 医療における高度情報処理—人工知能と言語処理</p> <p>※) 5月25日 休講</p> <p>7) 6月1日 1コマ ディスカッションと試験</p>		
教科書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療情報 情報処理技術編 (篠原出版新社)</li> <li>・医療情報 医療情報システム編 (篠原出版新社)</li> <li>・内閣官房高度情報通信ネットワーク社会推進戦略本部 (IT 総合戦略本部) HP</li> </ul>		
参考書	<p>Biomedical Informatics: Computer Applications in Health Care and Biomedicine</p> <p>Editors: Shortliffe &amp; Edward H. &amp; Cimino &amp; James J. (Eds.) Springer; 4th ed. 2014 版</p> <p>SBN-10: 1447144732</p> <p>ISBN-13: 978-1447144731</p>		
成績評価の方法	出席率 30%、討論 20%、レポート (含試験) 点数 50%の比重で総合的に判定する。		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>保健医療経済学：医療経済学的観点で医療情報システムを理解する上で関連性を有する。</p> <p>公共健康情報学：健康をとりまく種々の公共情動的側面を知るうえで、関連性が強く、同時に受講することが望ましい。</p> <p>臨床疫学：医療情報システムから収集される大規模データの解析の実例や手法を学ぶ上で関連が深い。</p>		

科 目 名	医療情報システム学実習 [科目番号：41818313]		
タ ー ム	S2	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	木 1 & 木 2		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	大江 和彦		
授 業 の 目 的	<p>医療情報システム学教室で開発し研究者に提供している多目的臨床症例登録システム MCDRS (マックドクターズ) を使って研究管理者として疾患登録システムを稼働させ、臨床症例を登録する実習を通して、医療データベースの考え方、電子カルテシステムとのデータ連携の手法、医療情報の標準化、クラウド上と医療機関上のネットワークの違い、データベース変換など医療情報システムを臨床や研究で活用していく基本的な技法と実践的知識を身につける。またファイルの暗号化等々の技術的な仕組み、仮想化システムの仕組みを体験する。</p>		
授 業 の 方 法	<p>医療情報システム学教室で開発し研究者に提供している多目的臨床症例登録システム MCDRS (マックドクターズ) 使って研究管理者として疾患登録システムを稼働させ、臨床症例を登録する実習を行う。また暗号化ファイルの取扱いを実習する。 (プログラミング技術を身につける実習はしない。) 各自のノートパソコン持参して実習する。</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>初回年 6 月 7 日 (木) 計 7 日 13 コマ 6 月 7, 14, 28, 7 月 5, 12, 19, 26 日</p> <p>【★1 限冒頭の遅刻厳禁。コンピュータを使った実習方法を毎回歩調を全員で合わせて説明するため一人が遅刻するとあとでその人のために教員リソースを割く必要が生じ、他の皆が迷惑します。】</p> <p>特定の疾患に各自がフォーカスを絞り、多目的臨床症例登録システム MCDRS を使って My 症例データベースを作ることによって種々の医療情報技術を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 対象疾患の決定と登録すべき項目の決定</li> <li>2) 登録項目シートの作成</li> <li>3) Web 版多施設症例登録システムを自分でインターネット上に稼働させる。</li> <li>4) 試験的な患者登録を行う。相互症例登録実験</li> <li>5) 中間発表会</li> <li>6) 情報セキュリティと暗号化</li> <li>7) 仮想化システム、ディスカッション</li> </ol>		
教 科 書	<p>パソコンは各自所有のノート PC の使用を原則とするが、所有していない場合には当方で用意し実習期間中は貸与する。各自のノート PC で実習する関係で事前に希望者は申し出て PC 機種情報を申告する。実習パソコンでは Web ブラウザとエクセルが使える必要がある。各自にそれ以上のパソコンスキル、プログラミングスキルは不要である。</p>		
参 考 書	多目的臨床症例登録システム MCDRS のホームページ資料( <a href="http://mcdrs.jp">Http://mcdrs.jp</a> )		
成績評価の方法	出席状況 (30%)、発表会や質疑等 (40%)、出来上がりデータベース (30%)を総合的に評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	医療情報システム学講義を受講しているほうが実習を理解しやすい。		

科目名	法医学・医事法学 [科目番号：41818316]		
タ　　ー　　ム	S1S2	単　　位　　数	2
曜日・授業時間帯	月 3		
場　　　　所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担　　当　　教　　員	岩瀬 博太郎、槇野 陽介		
授　　業　　の　　目　　的	法医学の学問的目的を理解する。法医学における各分野（法病理学、法遺伝学、法中毒学、法歯科学、法画像診断学、臨床法医学）で実施される業務に関して、その目的と内容を理解する。		
授　　業　　の　　方　　法	座学をメインとするが、PBL 形式の授業も考慮する。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	*4/16 より開講 1. 法医学とは 2. 日本の死因究明制度 3. 世界の死因究明制度 4. 医師と政治の関わり 5. 虐待と乳幼児の死亡 6. 法画像診断学 7. 法中毒学 1 (総論) 8. 法中毒学 2 (各論) 9. 法遺伝学 10. 法歯科学 11. 災害と法医学 12. 診療関連死		
教　　科　　書	エッセンシャル法医学		
参　　考　　書	死体は今日も泣いている、光文社		
成績評価の方法	出席 (40 点) レポート (60 点)		
他の授業との関連・履修上の注意	解剖見学も受けつけます		

科 目 名	医療安全管理学 [科目番号：41818318]		
タ ー ム	S1	単 位 数	1
曜日・授業時間帯	水 3 & 水 4		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	安樂 真樹、児玉 安司		
授 業 の 目 的	医療安全管理とは①有害事象の未然防止、②発生した有害事象への適切な対応、③患者からの苦情相談への対応のための取り組みである。本講義では、これらに関連する重要な問題について基礎知識を習得することを目的として、講義を行う。		
授 業 の 方 法	・様々なテーマ(先端医療における医療安全の取り組み、病院組織における医療安全管理活動、専門性の相互理解と共有、安全を支える医工融合の研究開発、事故調査委員会と報告書のあり方、ヒヤリ・ハット事例の収集・分析と無過失補償による紛争の解決について等)に沿って、1回1テーマを基本として講義を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>開講日：4月18日、4月25日、5月9日、5月16日</p> <p>(1) 医療安全に必要な視座 (児玉安司先生) 医療安全対策と医療事故紛争対応の15年の歩みを振り返り、今後の医療安全の方向性を議論する。これまでの品質管理、経営管理、政策制度構築の手法の限界と専門家と市民の対話、意思決定への参加など、大きな構造の変化を迎える中での医療の質・安全実現のための政策制度構築を検討する。</p> <p>(2) 先端医療の安全管理とインフォームドコンセント (安樂真樹) 先端医療は医療の発展には必要な領域である。安全を確保しながら、医療の新しい領域を切り開いていく際の、安全管理と当事者、医療関係者、社会への説明の在り方を考える。</p> <p>(3) 専門性の相互理解と共有(荒井有美先生) 大学病院の医療安全管理者の取り組み、特に薬剤関連の対策を中心に、立場や専門性の違う専門職が協働し、チームとして医療安全を確保するための方法を学ぶ。</p> <p>(4) 病院組織における安全管理 (相馬孝博先生) 医療機関の医療安全活動の全体像とマネジメント方法を学ぶ。特に、個人とシステム、対話(コミュニケーションとチームワーク)、患者参加(患者との対話)という3つの新しい観点に着目する。</p> <p>(5) 医療の質安全を支える未来志向手術室と医工融合による研究開発 (正宗賢先生) 医師とエンジニアが融合したチームが開発した、手術室の医療機器をネットワークでつないだ「スマート治療室」の他、医療ニーズから始まる研究、技術シーズの研究など新しいコンセプトに基づく研究について学ぶ。また医工融合環境に関するレギュレトリーサイエンスの現状を知る。</p> <p>(6) 医療事故調査制度、ヒヤリ・ハット事例の収集・分析と無過失補償による紛争の解決について (後信先生) 医療事故情報収集等事業と産科医療無過失補償制度の成り立ちと事業内容、これらの制度の現場での状況を学ぶ。医療安全のために収集した情報を活用するための工夫点、今後の様々な制度の展望を現場の視点を交えて学ぶ。</p> <p>(7) 事故調査委員会と報告書のあり方 (宮田哲郎先生) 「診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業」の経験を踏まえ、医療事故の調査を行う医療事故調査・支援センターの在り方とその調査結果を記す報告書の在り方について、</p>		

	<p>よりよい医療を目指す上で有用なもの（医療行為の専門的な評価を行い、再発防止に役立つもの）となるようにという観点から、その議論と経緯を学ぶ。</p> <p>(8) 試験</p>
教科書	当日配布資料あり
参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「患者安全」 Charles Vincent (著) &amp; 相馬孝博・藤澤由和 (翻訳) (篠原出版新社)</li> <li>2. 「ヘルスケアリスクマネジメント」 中島和江・児玉安司 (医学書院)</li> <li>3. 「医療安全ことはじめ」 中島和江・児玉安司 (医学書院)</li> </ol>
成績評価の方法	成績は筆記試験及び平常点により評価する。(出席 10%、試験 90%)
他の授業との関連・履修上の注意	本講義に関連して、医療安全管理学実習を実施する。

科目名	医療安全管理学実習 [科目番号：41818319]		
タ ー ム	集中	単 位 数	0.5
曜日・授業時間帯	集中		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	安樂 真樹、児玉 安司		
授 業 の 目 的	医療安全管理とは①有害事象の未然防止、②発生した有害事象への適切な対応、③患者からの苦情相談への対応のための取り組みである。本実習では、各種の医療機関で多様な医療安全対策と患者苦情対応の体制が整備されつつあることを認識し、医療安全管理活動に関する今後のあり方について考察することを目的とする。		
授 業 の 方 法	医療機関での聞き取り調査および観察実習とそれに基づく今後のあり方についての考察を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>2日間で下記プログラムの実習を行うものとする。</p> <p>1. 医療に関する苦情相談の内容分析と医療事故調査制度</p> <p>①患者からの医療に関する苦情相談の検討を行い、政策課題の発見や患者住民啓発や医療機関への効果的なフィードバックについて検討する</p> <p>②医療事故調査について理解し、当事者、組織内、社会との情報共有の課題について検討する</p> <p>2. 医療機関での調査・実習</p> <p>複数の医療機関の見学とディスカッション</p> <p>①医療安全対策部門の概況・活動の見学</p> <p>②患者相談・臨床倫理部門の概況・活動の見学</p> <p>③他の医療機関の医療安全対策についての報告会</p>		
教 科 書	実習当日に資料配布予定		
参 考 書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療安全ことはじめ 中島和江・児玉安司 (医学書院)</li> <li>・ 院内事故調査実践マニュアル 法令準拠 中島 勸 (医歯薬出版株式会社)</li> <li>・ その他、講義の際に、必要に応じて、紹介する。</li> </ul>		
成績評価の方法	成績は、出席状況及び実習報告書の内容で評価する。(出席 30%、報告書 70%)		
他の授業との関連・履修上の注意	別に実施する医療安全管理学(講義)を履修することが望ましい。ただし、必要条件ではない。		

科目名	健康危機管理学			[科目番号：41818320]
タ	S1	単	位	数
ム				1
曜日・授業時間帯	月 2 & 月 1			
場	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室			
所				
担当教員	小林 廉毅			
授業の目的	新興・再興感染症等のアウトブレイクや大規模災害など様々な健康危機の事例、健康危機突発事の原因同定と対応策、リスクコミュニケーション、平時におけるサーベイランスについて学習するとともに、事例を用いて健康危機管理に必要な疫学調査法の基本を習得する。			
授業の方法	講義及び過去の典型的な事例を用いた事例研究 (ケーススタディ) による。			
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	5 / 7 (月) 公衆衛生サーベイランス (小林) 感染症アウトブレイクへの対応 (中島講師)  5 / 1 4 (月) アウトブレイクへの対応(1) (事例検討) (中島講師、富尾講師) 〃 (2) ( 〃 ) (中島講師、富尾講師)  5 / 2 1 (月) 健康危機管理概論、新興・再興感染症 (岡部講師) 保健行政における健康危機管理 (田中講師)  5 / 2 8 (月) (2 時限) 災害医療とリスクコミュニケーション (富尾講師)			
教科書	なし			
参考書	「最新感染症ガイド R-Book 2015」(日本小児医事出版社、2016 年)			
成績評価の方法	出席 (約 60%) 及びレポート (約 40%) に基づいて評価する。			
他の授業との関連・履修上の注意	他学部聴講者については初回授業時に責任教員にその旨を伝えること。			

科目名	保健行政・健康危機管理学実習			[科目番号：41818321]
タ　　一　　ム	集中	単　　位　　数	2	
曜日・授業時間帯	集中			
場　　所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室			
担　当　教　員	小林 廉毅			
授　業　の　目　的	健康危機管理や保健行政一般に関して、各種資料の収集、各種疫学指標の算出、原因に関する仮説の構築、現実的な対応策の立案及びその実施と評価、対策実施に関わる組織・態勢のマネジメントなどについて実習する。			
授　業　の　方　法	保健行政・健康危機管理の現場に身をおき、保健所長などの各種専門職の役割を理解しながら、実習を行う。			
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	実習先（保健所等）における実習計画に基づいて行う。 実習期間は受入先との相談の上決定するが、今年度は 9/3（月）～9/14（金）を予定している。			
教　科　書	なし			
参　考　書	「衛生行政大要 改訂第 24 版」（日本公衆衛生協会、2016 年）			
成績評価の方法	出席(50%)、実習態度(40%)、実習報告書(10%)を目安に評価するが、いずれも必須である（合否で判定）。			
他の授業との関連・履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「健康危機管理学」の履修を必須とする。</li> <li>2. 本実習の対象者は将来、公衆衛生行政に進むことを希望しており、実習先の指定する資格を取得している者に限定する。また、受け入れ施設の都合により履修人数を制限することがある。</li> </ol>			

科目名	環境健康医学 [科目番号：41818322]		
タ一ム	A1	単位数	1
曜日・授業時間帯	月 2		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	川上 憲人		
授業の目的	<p>This course introduces students to environmental health perspectives on how environmental factors influence human health at individual and population levels. Students will understand basic concepts and methods to assess environmental exposures and health effects. Studies for specific environmental factors (air, water, soil, food, radiation, and climate variability) associated with health will be covered and discussed in the course.</p>		
授業の方法	Lecture and group discussion		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>Oct 1 10:25-12:10 Basic principles of environmental health  Oct 15 10:25-12:10 Environmental exposure assessment  Oct 15 13:00-14:45 Environmental exposure science (guest lecturer)  Oct 22 10:25-12:10 Health effect assessment  Oct 29 10:25-12:10 Air pollution and human health  Nov 5 10:25-12:10 Water &amp; soil &amp; food &amp; and radiation and human health  Nov 12 10:25-12:10 Climate variability and human health</p>		
教科書	<p>Ray M. Merrill. Environmental epidemiology: principles and methods. Jones and Bartlett Publishers  Dean Baker and Mark J. Nieuwenhuijsen. Environmental epidemiology: study methods and application. Oxford</p>		
参考書	<p>Environmental health perspectives <a href="https://ehp.niehs.nih.gov/">https://ehp.niehs.nih.gov/</a>  Journal of Exposure Science and Environmental Epidemiology  <a href="https://www.nature.com/jes/">https://www.nature.com/jes/</a>  Occupational and Environmental Medicine <a href="http://oem.bmj.com">http://oem.bmj.com</a></p>		
成績評価の方法	<p>20% attendance  40% short reactions (1-2 pages)  40% final term paper</p>		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>1) All lectures are given in English.  2) All assignments should be written in English.</p> <p>• Course-related websites  World Health Organization (WHO) <a href="http://www.who.int/">http://www.who.int/</a>  International Society for Environmental Epidemiology (ISEE) <a href="http://www.iseepi.org/">http://www.iseepi.org/</a>  International Society of Exposure Science (ISES) <a href="https://www.intlexposurescience.org/">https://www.intlexposurescience.org/</a></p>		

科 目 名	公共健康情報学 [科目番号：41818323]		
タ ー ム	S2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	金 3 & 金 4		
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担 当 教 員	小山 博史		
授 業 の 目 的	医療分野におけるデータサイエンスの基礎について理解すること。		
授 業 の 方 法	各回 1 テーマの講義を行う。テーマによって資料を配布し、Active learning も取り入れた講義を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>(講師の都合により日程及び内容の変更有)</p> <p>6 月 8 日 医療におけるデータサイエンス (データマイニング概論：R の利活用) (小山) 米国の予防接種登録システムにおける意思決定支援 (小山)</p> <p>6 月 15 日 がん対策情報センターとがん政策 (仮) (国立がん研究センター がん対策情報センター長：若尾文彦先生) 情報関連法と情報倫理 (小山)</p> <p>6 月 22 日 がんにおける遺伝子診断の現状と課題 (仮) (国立がん研究センター 遺伝子診療部門長：吉田輝彦先生) 総合討論 (Active Learning) (小山)</p> <p>6 月 29 日 災害医療における情報処理 (仮) (日本医科大学 准教授：布施明先生) 医療におけるデータサイエンス (GIS：地理情報システム) (小山)</p> <p>7 月 6 日 患者中心の医療のための健康情報処理の現状と課題 (仮) (京都大学医学研究科 教授：中山健夫先生) 総合討論 (Active Learning) (小山)</p> <p>7 月 13 日 診療ガイドラインの社会的役割 (小山) 知識ベースの社会的役割 (小山)</p> <p>7 月 20 日 総合討論 (Active Learning) (記述試験予定)</p> <p>7 月 27 日、8 月 3 日 (予備日)</p>		
教 科 書	1) Magnuson & J.A. & Fu & Jr. & Paul C. (Eds.) Public Health Informatics and Information Systems 2nd ed. 2014 & Springer. ISBN 978-1-4471-4236-2.		
参 考 書	1) Magnuson & J.A. & Fu & Jr. & Paul C. (Eds.) Public Health Informatics and Information Systems 2nd ed. 2014 & Springer. ISBN 978-1-4471-4236-2.		
成績評価の方法	出席 (約 50%)、小テスト・総合討論 (約 30%)、期末試験 (約 20%) により評価する。		

他の授業との関連・履修上の注意	<p>原則聴講は不可。理由は、班ごとに課題についての発表を行う講義もあるため他の学生に迷惑になる可能性があるためです。</p> <p>医療における情報処理と知識処理についての講義と議論を行います。非常勤講師の先生方は、各分野で日本を代表する方々ばかりなので他には聞けないことが数多く拝聴することができます。講義は 105 分ですが約 60 分ほどで講義し、その後講師への質問や課題に対する議論を中心に行っていく予定です。</p>
-----------------	--

科目名	公共健康情報学演習 [科目番号：41818324]		
ターム	A1	単位数	2
曜日・授業時間帯	金 3 & 金 4		
場所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	小山 博史		
授業の目的	医療における空間疫学の基本的手法の習得 To acquire basic methods of spatial epidemiology in medical care.		
授業の方法	空間疫学に関する基本的なデータ処理法を修得するため、実習の手引を元に PC を用いた実習を行う。(基本的には R を使用) Active Learning としてグループ分けし、各課題について疾患地図等を作成し発表を行い、医療データの可視化に関する演習を行う。		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 空間疫学と空間データの基本操作 (小山)</li> <li>2. 地域間の比較 (小山)</li> <li>3. 空間データの可視化 (小山)</li> <li>4. 空間的自己相関 (小山)</li> <li>5. 疾患地図 (小山)</li> <li>6. 空間集積性 (小山)</li> <li>7. 空間点過程 (小山)</li> <li>8. カウントデータモデル (小山)</li> </ol> (都合により変更の可能性あり)		
教科書	Applied Spatial Data Analysis with R. Springer; 2nd ed. 2013 版 (2013/7/1)		
参考書	Applied Spatial Data Analysis with R. Springer; 2nd ed. 2013 版 (2013/7/1)		
成績評価の方法	出席 (約 50%) と小テスト (約 30%), 課題レポート (約 20%) により評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	原則聴講は不可。理由は、班ごとに課題についての発表を行う講義もあるため他の学生に迷惑になる可能性があるためです。 PC 持参。(OS:Windows or Mac)		

科 目 名	インターンシップ			[科目番号：41818411]
タ ー ム	通年	単 位 数	2	
曜日・授業時間帯	集中			
場 所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室			
担 当 教 員	川上 憲人			
授 業 の 目 的	公衆衛生の現場（公衆衛生関連の試験研究機関・シンクタンク・非営利団体等、医療機関）などに身を置いて、実務の中から、自ら取り組むべき課題を見つけ、分析を行い、対策を立案する能力を身に付ける。			
授 業 の 方 法	学生が自らの関心に応じて、あらかじめ用意されたインターンシップ受入先（下記参照）を担当教員に提示した後、担当教員がコーディネーターとなり、学生の意欲や適性と受入先の状況に応じて受入先と調整を行い、派遣先を決定後、実施する。*募集期間 6 月中旬および 2 月上旬			
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>インターンシップ実施にあたって、あらかじめ、学生、責任教員及び受け入れ先と綿密に打ち合わせの上、実習計画を立て、それに基づいて実習を行う。</p> <p>○受入先一覧</p> <p>1 国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所 テーマ…食品摂取量に関する調査計画の検討</p> <p>2 NPO メンタルケア協議会 テーマ…①東京都自殺相談ダイヤル相談記録に基づく相談者傾向の分析等 ②東京都精神科救急医療情報センター相談記録に基づく救急医療利用の傾向変化についての分析等 ③自殺未遂者対応連携支援事業における G-P 連携の効果評価</p> <p>3 独立行政法人 国立がん研究センター がん対策情報センターがん情報・統計部 テーマ…①臨床研究現場の見学：臨床試験・研究の立案プロセス等を知り、医療機関で働く生物統計家や臨床試験・研究に関する専門家の役割を学ぶ ②臨床試験データの解析演習</p> <p>4 国立保健医療科学院 テーマ…医療技術や医薬品等の費用対効果の評価と活用</p> <p>5 株式会社 三菱総合研究所（夏季のみ） テーマ…保健、医療、介護に関わるプロジェクト分析やコンサルティング業務など</p> <p>6 株式会社キャンサーキャン テーマ…市町村の保健行政（がん検診の受診率向上等）、理想的な職場環境づくり等に対するコンサルティングプロジェクトを通じて、担当者を説得するコミュニケーション、ビジネスとしてプロジェクトを動かすスキーム等を体験し学ぶ</p>			

	上記以外の機関については、専攻長まで希望を書面で提出し、専攻会議で承認を受けることでインターンシップを行うことができる。
教科書	特に指定しない。
参考書	特に指定しない。
成績評価の方法	出席 (30%)、実習態度 (30%)、インターンシップ報告書 (40%) に基づいて評価する。
他の授業との関連・履修上の注意	インターンシップ参加決定後の問題点等は、指導教員 (研究室配属されていない場合には専攻長) と相談の上、窓口教員あるいは大学院係 (櫻井) までお願いいたします。

科目名	公共健康医学特論		[科目番号：41818511]
タ	S1	単	2
曜日・授業時間帯	月 4 & 月 5		
場	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻 (SPH) 講義室		
担当教員	豊川 智之		
授業の目的	公共健康医学専攻の 12 分野と外部講師から、それぞれ公共政策・活動との接点となる具体的取り組み事例や課題をテーマとして取り上げ、公共の厚生に資する健康科学のあり方と、その研究・実践上の克服すべき課題について、理解を深める。		
授業の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 12 分野の教員と外部講師による講義を行う</li> <li>・ テーマごとに資料が配布される</li> </ul>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>授業計画及び内容 (各回のテーマ)</p> <p>1) 4/9 14:55-16:40 パブリックメンタルヘルス：公衆衛生としての精神保健 (川上)</p> <p>2) 4/9 16:50-18:35 法医学 (岩瀬)</p> <p>3) 4/16 14:55-16:40 臨床疫学概論 (康永)</p> <p>4) 4/16 16:50-18:35 保健医療政策の立案と実現 (厚生労働省 迫井)</p> <p>5) 4/23 14:55-16:40 公共健康情報学概論 (小山)</p> <p>6) 4/23 16:50-18:35 保健医療計画 (小林)</p> <p>7) 5/7 14:55-16:40 サイエンス・ヘルスコミュニケーション (木内)</p> <p>8) 5/7 16:50-18:35 医療倫理学概論 (赤林)</p> <p>9) 5/14 14:55-16:40 景気動向と健康 (近藤)</p> <p>10) 5/14 16:50-18:35 健康医療情報の二次利用をとりまく諸問題 (大江)</p> <p>11) 5/21 14:55-16:40 空気中微生物の環境健康影響 (ソウル大学 山本)</p> <p>12) 5/21 16:50-18:35 臨床試験成績の解釈と公共への発信 (松山)</p> <p>13) 5/28 14:55-16:40 健康の社会的決定要因：医療モデルの批判的克服 (橋本)</p> <p>14) 5/28 16:50-18:35 公衆栄養学・予防栄養学の役割と課題 (佐々木)</p> <p>(※講義の順番・内容は変更することがある)</p>		
教科書	講義毎に異なるので適宜指示する。		
参考書	講義毎に異なるので適宜指示する。		
成績評価の方法	各回の出席 (50%)・レポート (50%) を総合的に評価して判定する。		
他の授業との関連・履修上の注意	<p>他の授業のすべてと関連を有する。</p> <p>レポート提出などの質問などは豊川 (健康医療政策学) まで</p>		

科目名	課題研究 [科目番号：41818611]		
タ　　ー　　ム	集中	単　　位　　数	6
曜日・授業時間帯	集中		
場　　　　所	医学部教育研究棟 13 階 公共健康医学専攻（SPH）講義室		
担　当　教　員	川上 憲人		
授　業　の　目　的	公衆衛生学の諸領域における高度な問題解決能力を身に付ける。		
授　業　の　方　法	特定の研究課題について、現地調査（フィールドワーク）、資料収集、分析・統計解析、論文作成などを指導教員の指導のもとで行う。		
授業計画及び内容 （各回のテーマ）	4月～12月 課題研究 1月 課題発表会		
教　科　書	特になし		
参　考　書	特になし		
成績評価の方法	出席状況（50%）及び課題研究の成果（課題研究論文）（50%）で評価する。		
他の授業との関連・履修上の注意	出席状況（50%）及び課題研究の成果（課題研究論文）（50%）を発表会にて評価する。		

## 6. 公共健康医学専攻成績評価規則

### 公共健康医学専攻成績評価規則

制定 平19. 4. 1

改正 平26. 7. 23

#### (成績の区分)

第1条 学生の成績は、A+, A, B, C, Fの5段階とし、C以上を合格とする。ただし、特別の理由があるときは合格・不合格の2段階評価とすることができる。

#### (成績区分の標準)

第2条 A+, A, B, C, Fの基準は、下記の通りとする。

A+ 90点以上

A 80点以上

B 70点以上

C 60点以上

F 不合格(60点未満)

#### (成績評価)

第3条 成績は、筆記試験及び平常点によって評価する。ただし、実習科目並びに相当の理由がある演習科目、受講生の少ない科目等では、レポート等の提出によって筆記試験に代えることができる。

2 各教員は、成績評価に際してどのような要素がどの程度考慮されるかにつき、学生が履修する前に公表しておくものとする。

3 教員による採点は、原則として素点によって行う。ただし、学生には素点ではなく、5段階評価で通知する。

#### (成績に関する説明)

第4条 学生は、自己の成績について、成績の通知を受けてから1ヶ月以内に限り所定の方式に従い、教員に対して説明を求めることができる。

#### (筆記試験の実施)

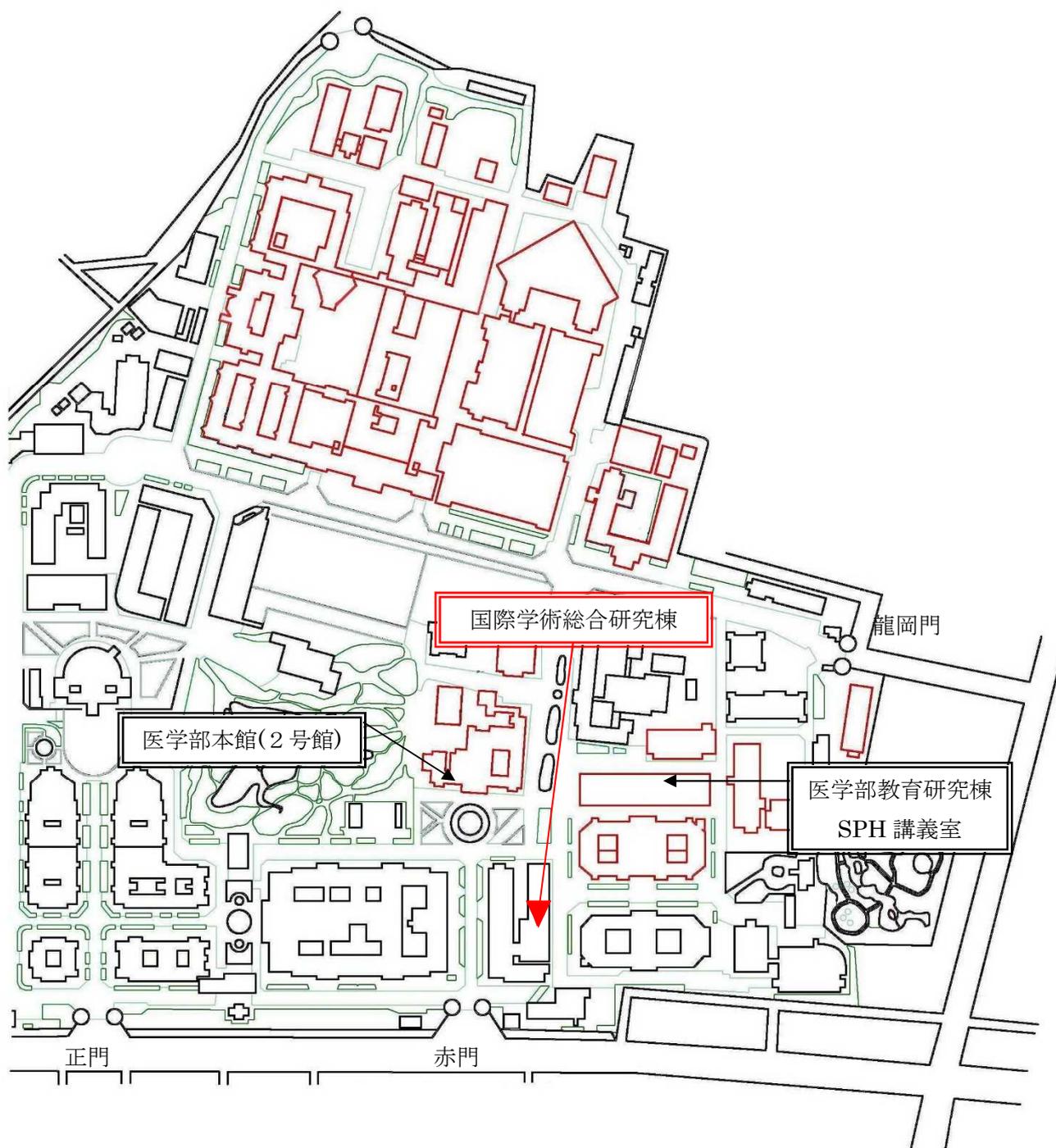
第5条 筆記試験実施の細目は、別に定める。

#### 附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

## 7. 公共政策大学院との合併科目について

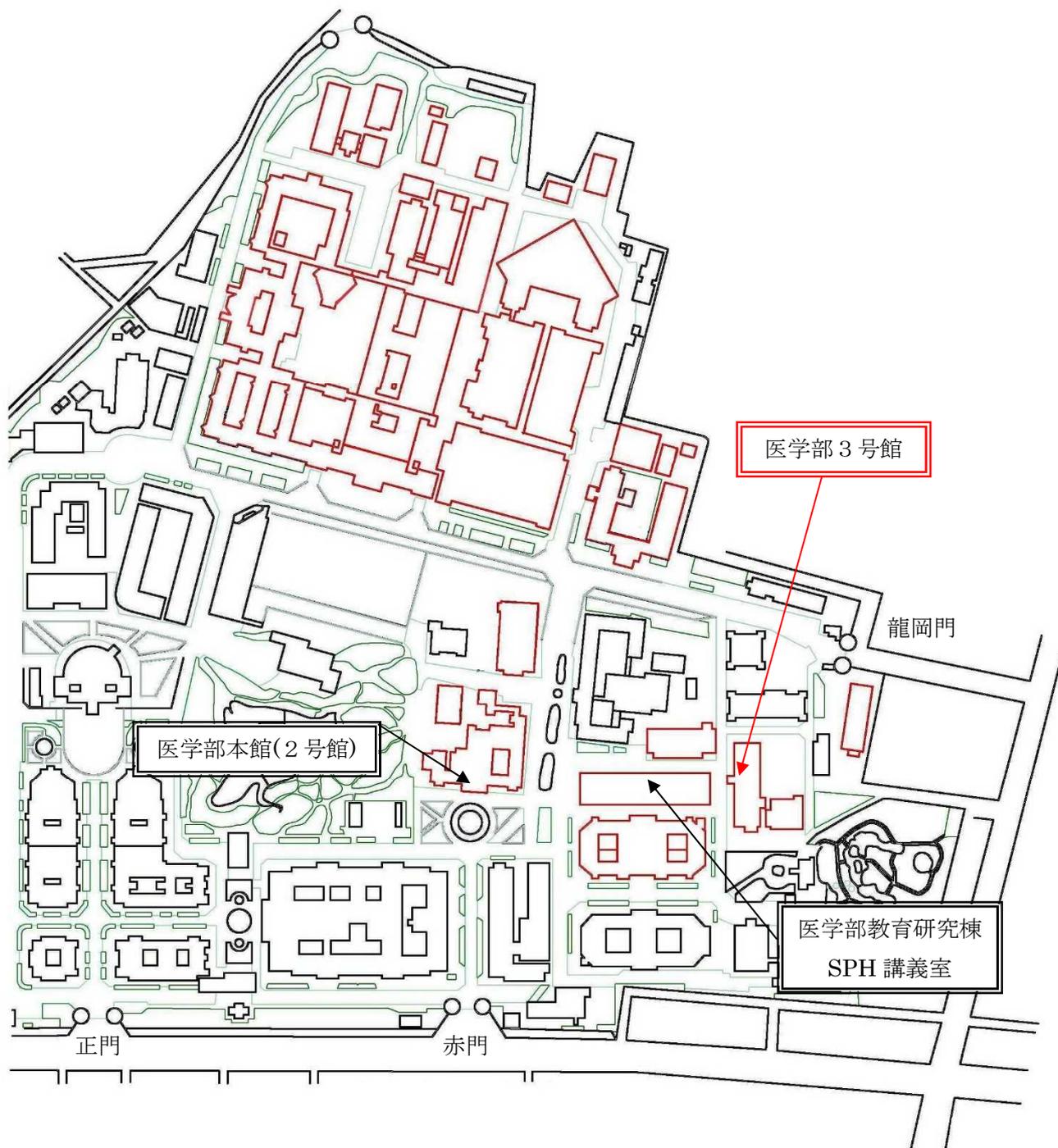
	科目番号	科目名 (担当)	単位	ターム	曜日	時限	開講場所
P. 54	41818326	社会保障法政策 (島崎)	2	A1・A2	月	6	国際学術総合研究棟 SMBC Academia Hall



科 目 名	社会保障法政策 [科目番号：41818326]		
タ ー ム	A1A2	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	月 6		
場 所	国際学術総合研究棟 SMBC Academia Hall		
担 当 教 員	島崎 謙治		
授 業 の 目 的	<p>社会保障をめぐる法政策は、高齢化・少子化の進展、経済成長の低迷、経済活動の国際化など、社会経済の大きな変化を背景に、非常にダイナミックな動きを見せている。しかも、社会保障制度は、国民の生活に直結し、かつ国の経済活動にも影響を与えるために、現代行政の中でも大きな位置を占めるに至っている。</p> <p>この授業は、現代行政において重要性を増しつつある社会保障について、実際に政策立案に携わった経験も踏まえ、法政策とは何かという点にポイントを置き、基本的に講義形式で行う。</p> <p>具体的には、総論として、法政策とは何か、人口問題と社会保障、社会保障の国際比較、について講義した後、各論として、医療を中心に取り上げる。また、年金および社会福祉についても講義する。</p>		
授 業 の 方 法	講義方式による。		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 少子高齢化・経済成長と社会保障（人口構造・経済構造と社会保障）</li> <li>2. 社会保障・法・政策（社会保障と法・制度・政策の意味）</li> <li>3. 日本の社会保障制度の沿革（日本の社会保障の歴史と現状）</li> <li>4. 日本の社会保障の体系と特質（社会保障の国際比較、社会保険方式の意義）</li> <li>5. 医療保険制度 1（医療保険制度の概説と政策課題）</li> <li>6. 医療保険制度 2（医療保険制度体系論）</li> <li>7. 医療供給制度 1（医療供給制度の基本問題と政策課題）</li> <li>8. 医療供給制度 2（医療供給制度の政策手法。診療報酬制度等）</li> <li>9. 介護保険制度（介護保険制度の概説と政策課題）</li> <li>10. 生活保護および福祉制度（生活保護および福祉制度の概説と政策課題）</li> <li>11. 年金制度 1（公的年金制度の概説と政策課題）</li> <li>12. 年金制度 2（前回の補足および企業年金制度の概説と政策課題）</li> <li>13. 社会手当（児童手当・児童扶養手当の概説と政策課題）</li> <li>14. 社会保障と税制（社会保障・税の一体改革等）</li> <li>15. 総括（全体のまとめ）</li> </ol>		
教 科 書	授業の中で指定する。		
参 考 書	島崎謙治『医療政策を問いなおす』（ちくま新書、2015年）		
成 績 評 価 の 方 法	レポートによる。		
他 の 授 業 と の 関 連 ・ 履 修 上 の 注 意	履修を希望する者は、必ず初回の授業に出席すること。 初回にあらゆる政策の基礎となる人口問題の解説を行う。この回だけでも聴講することを薦める。		

## 8. 国際保健学専攻との合併科目について

	科目番号	科目名 (担当)	単位	ターム	曜日	時限	開講場所
P. 56	41818328	国際保健政策学特論 I (渋谷)	2	S1・A1	火	3, 4	医学部 3号館 5階 N507 セミナー室
P. 58	41818329	国際保健政策学特論 II (渋谷)	2	A2・W	火	3, 4	医学部 3号館 5階 N507 セミナー室



科 目 名	国際保健政策学 I		[科目番号 : 41818328]
タ ー ム	S1A1	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 4 & 火 3		
場 所	医学部 3 号館 5 階 N507 セミナー室		
担 当 教 員	渋谷 健司		
授 業 の 目 的	<p>本特論は、グローバルヘルスにおける主な課題と論点の理解と理論的背景を概説するとともに、政策課題の分析と解釈のための実践的演習を行う。グローバルヘルスの第一線で活躍する外部講師による特別講義も適宜実施し、理論と実践の双方を習得する。扱うテーマは、グローバルヘルスの政策とガバナンス、イノベーション、保健関連ミレニアム開発目標（母体、新生児、小児の疾病、HIV/エイズ、結核やマラリア）、疾患サーベイランス等である。</p> <p>This course introduces the principles and theories of major global health challenges and discusses current controversies in improving global population health, as well as practical applications of quantitative methods to analyze and interpret issues and challenges for policy. Topics will include: global health policy and governance, innovations in global health, health-related MDGs (maternal, newborn and child health, HIV/AIDS, tuberculosis, and malaria), and disease surveillance.</p>		
授 業 の 方 法	<p>受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。</p> <p>Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive, consisting of lectures, exercises and cases discussions. An emphasis will be placed on the capacity to analyze, interpret and propose solution to the current global health topics.</p>		
授業計画及び内容 (各回のテーマ)	<p>4月17日から6月5日(1-7)および 9月25日から11月6日(8-14)まで。</p> <p>講義スケジュール(予定)</p> <p>Lecture Topic</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Innovations in global health (1)</li> <li>2 Global health policy: overview</li> <li>3 (Special lecture) Innovations in global health (2)</li> <li>4 Global Health governance</li> <li>5 Maternal and newborn health</li> <li>6 Recent trends in development assistance</li> <li>7 Child survival</li> <li>8 (Special lecture) Development in Africa and its leadership</li> <li>9 Malaria</li> <li>10 Tuberculosis</li> <li>11 HIV/AIDS</li> </ol>		

	<p>12 Social determinants of health 13 Pandemic influenza and IHR 14 Final Exam</p> <p>April 17th -- Jun 5th (1-7) &amp; September 25th -- November 6th (8-14)</p> <p>Tentative course schedule is as the following: Lecture Topic</p> <p>1 Innovations in global health (1) 2 Global health policy: overview 3 (Special lecture) Innovations in global health (2) 4 Global Health governance 5 Maternal and newborn health 6 Recent trends in development assistance 7 Child survival 8 (Special lecture) Development in Africa and its leadership 9 Malaria 10 Tuberculosis 11 HIV/AIDS 12 Social determinants of health 13 Pandemic influenza and IHR 14 Final Exam</p>
教科書	<p>課題図書(毎週 6 から 10 の英語文献)は各講義の 1 週間前に配布する。 Course packs (6-10 papers per week) will be distributed in class one week before each lecture.</p>
参考書	<p>課題図書(毎週 6 から 10 の英語文献)は各講義の 1 週間前に配布する。 Course packs (6-10 papers per week) will be distributed in class one week before each lecture.</p>
成績評価の方法	<p>宿題(30%)、授業への参加(20%)、筆記試験(50%) Problem sets (30%) &amp; class participation (20%) &amp; and final exam (50%)</p>
他の授業との関連・履修上の注意	<p>受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。</p> <p>Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive, consisting of lectures, exercises and cases discussions. An emphasis will be placed on the capacity to analyze, interpret and propose solution to the current global health topics.</p> <p>特別講義や講義資料は国際保健政策学教室の HP を参照のこと。 Information on special lectures and course material will be available on the GHP website.</p>

科 目 名	国際保健政策学Ⅱ		[科目番号：41818329]
タ ー ム	A2W	単 位 数	2
曜日・授業時間帯	火 4 & 火 3		
場 所	医学部 3 号館 5 階 N507 セミナー室		
担 当 教 員	渋谷 健司		
授 業 の 目 的	<p>本特論は、グローバルヘルスにおける主な課題と論点の理解と理論的背景を概説するとともに、政策課題の分析と解釈のための実践的演習を行う。グローバルヘルスの第一線で活躍する外部講師による特別講義も適宜実施し、理論と実践の双方を習得する。扱うテーマは、保健医療制度と皆保険（UHC）、疾病負担（GBD）、リスク因子分析、慢性疾患（NCDs）、保健財政、保健サービス、保健制度パフォーマンス分析、保健と外交政策等である。</p> <p>This course introduces the principles and theories of major global health challenges and discusses current controversies in improving global population health, as well as practical applications of quantitative methods to analyze and interpret issues and challenges for policy. Topics will include: health systems and universal health coverage (UHC), burden of disease, comparative risk factor analysis, non-communicable diseases (NCDs), population aging, health financing, health service quality, health system performance assessment, and health and foreign policy.</p>		
授 業 の 方 法	<p>受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。</p> <p>Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive, consisting of lectures, exercises and cases discussions. An emphasis will be placed on the capacity to analyze, interpret and propose solution to the current global health topics.</p>		
授 業 計 画 及 び 内 容 (各回のテーマ)	<p>11月20日から1月22日(1-8) および 1月29日から2月19日(9-12) まで。</p> <p>講義スケジュール(予定)</p> <p>Lecture Topic</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 Global health diplomacy</li> <li>2 Quantifying health outcomes</li> <li>3 Non-communicable diseases (1): Cancers and CVDs</li> <li>4 Non-communicable diseases (2): Mental illness and injuries</li> <li>5 Comparative risk assessment</li> <li>6 Major risk factors: Tobacco and alcohol</li> <li>7 Health system performance assessment</li> <li>8 Health service quality</li> <li>9 Monitoring and evaluation</li> <li>10 Financing health systems (1)</li> </ol>		

	<p>11 Financing health systems (2) 12 Final Exam</p> <p>November 21st -- January 23rd (1-8) &amp; January 30th -- February 20th (9-12)</p> <p>Tentative course schedule is as the following:</p> <p>Lecture Topic</p> <p>1 Global health diplomacy 2 Quantifying health outcomes 3 Non-communicable diseases (1): Cancers and CVDs 4 Non-communicable diseases (2): Mental illness and injuries 5 Comparative risk assessment 6 Major risk factors: Tobacco and alcohol 7 Health system performance assessment 8 Health service quality 9 Monitoring and evaluation 10 Financing health systems (1) 11 Financing health systems (2) 12 Final Exam</p>
教科書	<p>課題図書(毎週 6 から 10 の英語文献)は各講義の 1 週間前に配布する。 Course packs (6-10 papers per week) will be distributed in class one week before each lecture.</p>
参考書	<p>課題図書(毎週 6 から 10 の英語文献)は各講義の 1 週間前に配布する。 Course packs (6-10 papers per week) will be distributed in class one week before each lecture.</p>
成績評価の方法	<p>宿題(30%)、授業への参加(20%)、筆記試験(50%) Problem sets (30%) &amp; class participation (20%) &amp; and final exam (50%)</p>
他の授業との関連・履修上の注意	<p>受講者は事前に課題文献を読みその内容を理解し、授業での議論に備えること。授業は双方向に行い、講義と演習、事例の議論から成る。特に、現代のグローバルヘルス上のテーマに関する解決策の分析、解釈と提言を行うことを重視する。講義や課題・試験は全て英語で行う。</p> <p>Students are required to read and understand the contents of assigned readings prior to each lecture. Courses will be interactive, consisting of lectures, exercises and cases discussions. An emphasis will be placed on the capacity to analyze, interpret and propose solution to the current global health topics.</p> <p>特別講義や講義資料は国際保健政策学教室の HP を参照のこと。 Information on special lectures and course material will be available on the GHP website.</p>